



山好き爺さんの
山旅記と写真集

いがりこういち

あさやけの槍ヶ岳 奥穂高にて

山好き爺さんの

山旅記と写真集



いろいろ富士山

大菩薩峠



丹沢山



左遠方：富士山、右手前：槍ヶ岳

北穂高岳にて



ミヅバ岳山頂より



富士山と雷鳥

北岳にて



竜ヶ岳にて



矢倉山にて



エベレスト（右奥） カラパタールにて



雲竜の滝、アイスクライミング

まえがき

『80歳の壁』とかけまして

『食い放題、飲み放題で好きなように生きます』と解きます。

その心は『肥満、成人病何のその、そしてピンコロリ』

第一次登山ブームの頃高校時代に地元の山を3年間登り（本稿で紹介）、そして上京し、7年ぐらいは山どころでは無く、食うに精一杯、大学を卒業して落ちついてから山の再開を果たしたが30歳で結婚そして子供を儲け、仕事が忙しくなり、暇があればゴルフや酒にと生活が変わり、さすがに山登りは難しくなり特に宿泊付きは無理となった。それからは山とは絶好状態が続いたが本稿の山の会の入会時の自己紹介でも書きましたが定年間際で再々開し、仲間や夫婦、単独登山を楽しんでいたがその内体力等で一緒する仲間（妻も含む）が居少なくなり単独登山も危険と言う事で66歳の時『東葛山の会』に入会し、会の機関誌（月刊）に15年間投稿した文章を編集し直したのと新たに加えてまとめました。

それと写真も趣味の1つとして山登りにはカメラ持参が常としていましたので私なりの『傑作山岳写真集』として記載しました。

はんばな山男として『100名山 86峰達成、日本には3000m以上の山 21峰有り、その全てと北アルプスの主だった山の全てを登り、そして外国の山も少しばかり登りましたので良し』としました。また健康が許す限り身の丈に合った山を選び登り続けたいと思っています。とは云うものの『山は冒険』『山は待っている』・・・上高地、大正池、かつぱ橋、槍ヶ岳、穂高連峰等北アルプスの山々、そして下山後、明神池嘉次郎小屋で汗だくで飲む生ビールとイワナの塩焼き・・・“いいね！”・・・そろそろ難しくなってきました！

【今年の夏山は水虫治療の失敗で諦めました・・・後が無い、もったいない！】
名医には会いたくないですね。・・・残念！』

我が人生を振り返れば太平洋戦争の後遺症もあつたり、凡人がゆえに、いまいちの面も多かったが大事な岐路では何故か好転みぎ、そして今も『山登りと乾杯』の現役中。これも皆、『支えと運と健康』あつての事だと思っています。

おかげで健康寿命（72.6歳）、平均寿命（81.5歳）ともほぼ全う出来ました。

そこで80歳の記念として、アメリカ在住の為交流が少なかった孫へのメッセージとお世話になった身近な人や長い間お付き合い戴いた『皆さんへ感謝の意』をもって冊子を贈らせて頂きました。遊びの世界で恐縮ですが気楽に目を通して戴けば幸いに存じます。

目次

まえがき・写真（大判）

1, 故郷と現住まい

私の登山のルーツ『二ツ箭山と草野心平』	……	1
【高校時代 20 回登りました】		
16 歳の日記【自転車で福島県 1 周 7 日間と磐梯山登山】	……	3
【16 歳の自分から 80 歳の自分へ贈り物（無銭旅行 約 360 km）】		
故郷のレジェンド『アメリカンドリーム物語』（国府田敬三郎）	……	8
【伝記映画製作、記念酒づくり、高校の同級生、そして少女マドンナ】		
我がまち白井市の自慢『清水口池のオオハクチョウ』	……	10

2, 思い出の山

俺 1 番 思い出の写真【雷鳥と富士山】 北岳（3193m）にて	…	12
東葛山の会の歴史的な大イベント ” 北アルプス双六小屋集中登山”	…	15
【100 名山 7 峰・雲ノ平・高天原温泉・黒部源流、7 コース、20 人参加】		
“危うい” 『夫婦登山その 1』 北アルプス 劔岳・立山連峰登山	…	17
【失敗のスパイラルと 2 つの出会い】		
“危うい” 『夫婦登山その 2』 北海道十勝岳登山	…	20

3, 思い出の山（海外編）

エベレスト街道トレッキング『カラパタール（標高 5,550m）登頂』	…	21
インカ道トレッキング『空中都市マチュピチュ遺跡へ（標高 2400m）』	…	37

4, 山行記録（100 名山等）

キラコタン岬（釧路湿原）トレッキングと丹頂鶴観察	…	46
苗場山【永木さん 100 名山全頂制覇と私 80 歳で 85 峰登頂記念登山】	…	48
新穂高温泉～双六小屋～黒部源流～雲ノ平 往復縦走	…	52
【コロナ禍+異常気象で人気コースの登山事情は変わりました】		
御嶽山（3063m）・・・大噴火後半世紀ぶり “思い切ってノスタルジー”	…	58
仙人池（裏劔岳標高 2100m）・下の廊下紅葉登山	…	62
【黒部ダム、立山連峰紅葉、仙人池、下の廊下、トロッコ紅葉狩り】		

雪山蔵王（熊野岳）登頂、お釜・樹氷鑑賞	……	66
積雪の涸沢カール（穂高連峰の麓）の絶景	……	69
雨飾山・八方池（北アルプス）山行記録	……	71
気ままな男2人飯豊山縦走（東北）	……	73
千丈岳・甲斐駒ヶ岳（中央アルプス）登山	……	75
赤石岳、荒川三山（南アルプス）縦走	……	77
聖岳、光岳（南アルプス）縦走	……	78
宮之浦、縄文杉、白谷雲水峡（屋久島）縦走	……	80

5. ちょっと一言

男の第二の人生は『ぬれ落ち葉か』・『要介護族か』	……	84
同級会で分かった ” 建設業界には癌が多い”	……	84
エベレストにまつわる3人の化け物の話	……	85
東北大震災ボランティアと私が関わった津波体験館	……	87
東北大震災でやばかった我が家の欠陥（ちょっと参考になるかも！）	…	89
登山再会と東葛山の会入会時の自己紹介	……	90

6. コロナ禍での生活

レッツ “GOTO トラベル” で尾瀬が原・奥日光	……	91
コロナ禍で変わるこれからの価値観	……	94
手賀沼ウオーキング 1 【コロナ禍で“巣ごもり生活”と居残り白鳥】	…	95
手賀沼ウオーキング 2 【居残り白鳥のほとんどは別種『迷惑鳥』】	……	96
コロナ禍での入院と初夢登山	……	97

7. 傑作写真集 1（尾瀬ヶ原・上高地・涸沢の四季、穂高連峰、白馬岳等 100 名山、スイスアルプス、ロッキー山脈等）

8. 傑作写真集 2（京都、グランドキャニオン、奈良長谷寺等） … 121

9. 私の生業としての建築設計稼業を振り返って … 127

- ・ 社会貢献『白井市庁舎建設委員 6 年間』
- ・ 趣味の陶芸

私の登山のルーツ『二ッ箭山と草野心平』

【高校時代 20 回登りました】

令和 4 年 (2022) 記

・・・なだらかな阿武隈の山なみのひとところに

大花崗岩がそばたっていた。

鉄の鎖につかまってよじ登るのだが。

その二ッ箭山のガギガギザラザラが。

少年の頃の自分だった。

阿武隈の天は青く。

雲は悠々流れていたのに。

.....

草野心平詩集 噛む (少年思慕帳) より

私のふるさと石城郡小川町 (現いわき市小川町) である。お国自慢を 2 つ挙げろと言われれば、迷わず草野心平と二ッ箭山である。草野心平の生家は二ッ箭山登山口バス停側にありました。今もそのまま保存され記念館として無料開放されています。(戦前の地主)

私の実家から徒歩 30・40 分程度の隣部落であった。余談であるが近所の石屋のおんちゃん (母の妹の義父) 聞いた話ですが『心平とは子供の頃“近所で親戚” (親戚がいっぱいかも) であったので良く遊んでいた、また心平は頭が良く、頑張り屋で旧平市内の磐城中学まで朝暗い中 10km の道のりを提灯もって歩いて通学した』と聞いてひどく感動した事を思い出した。もしかしたら俺も親戚になるのかなーと！文才がある！“残念” まるで血縁無し。山好き、本好きはこの辺がきっかけかと思ったりもした。

草野心平が二ッ箭山をいかに愛していたかはこの詩からもまた二ッ箭山裏側のふもとの川内村で晩年を過ごした事からもわかるような気がします。(ただ故郷には住ずらなかったとも言われている) 私の高校時代はダークダッカスの山男の唄が流行った『第 1 次登山ブーム』で若者がこぞって山登りをした時代でもあった。(女性は少なく老人は居なかった)

二ッ箭山は標高 709m 特徴のある岩峰で 30 メートルの鎖場はなかなかのスリル感ある。独立峰で太平洋等の大展望も良いが紅葉、そして春はアカヤシ、オシロヤシオが楽しめた。私の家から心平の生家を越して根本登山口まで自転車で約 40 分、それから往復で 3・4 時間のコース (標高差 500m 程度) であった。貧乏高校生には握飯だけあれば金がかからず良い遊び場でもあった。写真からもわかるように長靴、制服、学帽が山支度である。高校生の頃に 20 回位は登った。

一人で登るのも多かったが『おさななじみのミヨちゃん (歌謡曲)』が小中学校の同級生で女子高仲間の案内を頼まれ、何度も一緒に登ったが 1 人として“友達にはなれなかった。 “よほどモテナ



かのでしょうね”。

私の山好きが助長されたのは修学旅行で箱根三国峠からの冠雪の富士山を見て、この世のにこんなにも壮大で美しい風景があるのかと感動した。草野心平詩集に富士山の詩が 26 編ありました。

高校時代に感動したもう 1 つのエピソード。

入学 3 日後の通学途中の平公会堂の事、高校生数人が窓によじ登り、中をのぞいている。好奇心に身を任せ、負けずとよじ登り中を覗いて、びっくり！【ステージで歌っている女性がなんと美しい事か】この世の物とは思えない悩ましき姿！！田舎暮らしの 15 歳の少年の衝撃的【女性へ目覚め】か。（雪村いづみのコンサートであった）

映画も無い、テレビも無い、女性と言えどもんぺ姿か、セイラー服の中学性ぐらいか、なんと衝撃的な青春の 1 ページでした。

ニッ箭山頂上にて



16歳の日記【自転車福島県1周7日間と磐梯山登山】

【16歳の自分から80歳の自分へ贈り物（無銭旅行の日記 約360km）】

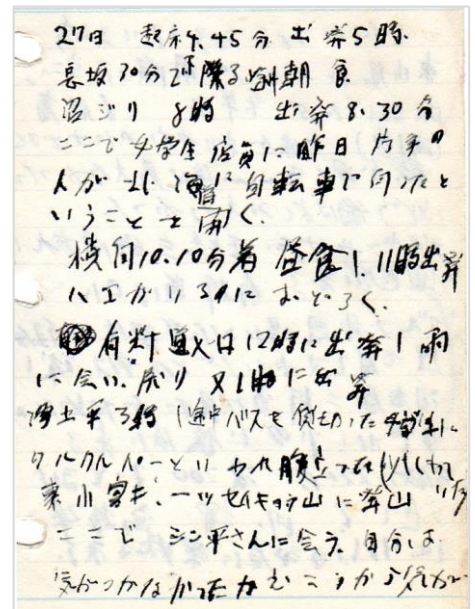
昭和33年（201958）7月23日から29日 令和5年元日記

『書きっぱなしの小さいメモ書きバインダー手帳を60余年ぶりに読んだ』、気にはなっていたが1度も見なかった“ずぼらな性格”そして下手な文章と文字の読みにくいのには今さらにあきれた。

この計画は『下村胡人の次郎物語』の影響であった。『16歳の自分』から『80歳の自分へ』と『同行した相棒へ』の贈りものとして纏めた。相棒とは良き友として今でも付き合いが続いている。

昭和33年7月23日から29日までの7日間の福島県1周、無銭旅行とは言え私が1000円、相棒が米5升を持つての出発となった。当時の自転車はごっつく頑丈で重たかった。

食事は適当な場所を見つけ火をおこし飯盒で炊く、おかずは缶詰、昼は梅干し入りのおにぎり、宿は行き当たりぱったりで頼んでタダで泊めてもらう。そんないい加減な計画であった。今で言えば2人は県内旅行と言う事になるが当時長距離移動は難しく、旅行も一般人には縁が無く、なお更いわき市は常磐線が便利で東京志向であった。2人にとっても郡山、会津若松、福島共初めて行く場所であった。地図は持たず、大まかな行程はいわき市～郡山市～会津若松市～福島市～いわき市經由小川町に帰る計画であった。



1日目（7月23日）いわき市小川町～磐越道～郡山市 （校長宅泊）約30km

16歳のメモ日記

前日相棒の鈴木が自転車で4時間走って来て我が家に泊まる。いわき市小川町を6時出発小野新町着9:50。郡山から来た女子高生に会い話をする、『小名浜に海水浴に行く』と言う、我らは反対で郡山に向かう。

小野新町菅谷で母の従妹の家を訪ねる。（12時から2時間ほど昔話そして近況を話した）郡山への途中阿武隈川で泳ぐ2人づれの男子高生に会い話をする、風呂変わりに川で一緒に泳いだ。その後別れて5時頃から川のほとりで薪を集め火をおこし、缶詰おかず飯盒飯を食べた。

宿探しで農家2軒に断られた後小学校を訪ねた。宿直の老いた先生（実は校長）が話を聞いてくれた。そして校長の自宅に泊まることに成った。家族はあんがい良い人だった。（アベックと間違われた）校長先生の経験談として『郡山から会津までのマラソンに参加した』話をしてくれた。朝飯をご馳走になった。特に味噌汁が旨かった。

2日目(7月24日)郡山から磐越西線道 会津若松市(教会泊)約60km 校長宅6時半出発、11時半志田浜で火をおこし飯盒での昼食。隣り合わせたアッベックと話をした。そこで『裏磐梯のバンガローに泊るのが良い』と言う話を聞き計画に入れた。

会津若松市に7時着、中山峠は急登で厳しかったが休まず乗り通し、教会があったので迷わず訪ね事情を話し宿泊をお願いし快諾してもらった。

食事の後教会に呼ばれ、その日がミサの日で信者が12人位集っていて皆さんから祝福を受けた。

40歳位の女性から始まり何人かから祝福の言葉を貰った『世に勝つ事は信仰なり』『世話になり、世話をする人間は誇りを持っている』『平(いわき市)から自転車でパンクもなく、ケガもなく、災いもなくここに辿り着いたのはイエス様が守ってくれた』その後牧師さんの話を聞き、えらく感動した。ミサが終わって風呂に入り11時就床した。

3日目(7月25日) 裏磐梯、檜原湖 (バンガロー泊) 約40km

5時起床予定が夕べの疲れのせいで6時になった。牧師さんから福島へのルートは『磐梯吾妻スカイラインが開通して間もないが評判が良い』との話を聞く、牧師さんの案内で鶴ヶ城と飯盛山見学。歴史上知られた話として『鶴ヶ城が燃えていると勘違いして少年白虎隊20人が自害した話。その中で死にきれなかった1人が東大の初代総長になった話』を聞きえらく感動した。

9時40分教会に戻り『薄皮まんじゅうをよばれた“実に美味しかった”』

10時40分出発、磐梯町に12時着、農家の人から声を掛けられ、その家で昼食をごちそうになる。猪苗代町で野口英世の生家を訪ねた後、この日泊る予定の裏磐梯のバンガローに6時に着いた。バンガロー代400円、毛布代70円支払った(2人分)。1泊のつもりがここで知り合った高校生(黒川高校)がもう1泊して磐梯山と一緒に登ることに成った。夜バンガローのドアがたたかれたので起きてみると昼間言葉を交わした20歳過ぎの2人組の男がキャンプファイヤーに誘いに来たとの事、4人共興味を持ち一緒に行く事に成った。ファイヤーの輪に入り一緒に踊った。2人組の男は『今夜は帰らない、一夜の情事や!』お前も行こうと言われたが4人で話し合っについて行く意見もあったが結局4人共断り10時にはバンガローに戻った。12時ごろ男女の騒ぐ声、戻って来たらしく『もう寝たの!・・・お休みなさい!』と大声が聞こえた。・・・ “なんとも気になった青春純情編でした”・・・

4日目(7月26日) 磐梯山登山 (最初に登った100名山) 檜原湖バンガロー泊

予定通り4人でもう1泊して磐梯山に登ることに成りバンガロー発5時、途中で火をおこし飯盒炊き朝食をとり、頂上に9時45分に着いた。きつい山では無かった。

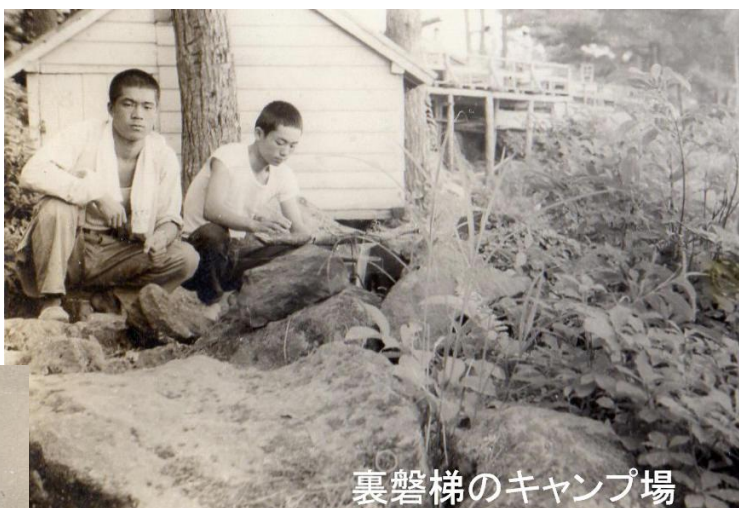
“頂上からの絶景に感動“10時下山の途につく、早い時間であり、登りの登山者多く、すれ違い



磐梯山を背景に裏磐梯にて

に『こんちはの挨拶』は少なくとも30回はした。一緒になった小母さんに写真を撮ってもらった。

磐梯山は実に素晴。それから昼食をとり、檜原湖に行ってボートに乗った。ボート代1時間100円。それから五色沼に行き、水の色が変わっているのを飲んでみたところ変な味で



裏磐梯のキャンプ場

どぶ臭かった。料金の追加は2組で折半した（バンガロー代+毛布+ボート代で1組200円）



磐梯山頂上にて

5日目（7月27日）磐梯吾妻スカイライン通り高湯温泉（玉子湯旅館泊） 約80km

4時45分起床、2人と別れ5時に出発した。後になって彼らから挿入の写真が送られて来た（我々はカメラは持てなかったのでありがたかった）急登の坂を30分で下る、途中で朝食、沼尻着8時、30分出発ここで女学生店員に『昨日片腕の人が自転車で北海道に行くと言っていた』と聞き、すごい人も居るなど感心した。横向に10時10分着、昼食、ハエが多いのに驚く、11時に出発。**磐梯吾妻スカイラインの入り口で『無銭旅行の旨を話し、タダで通してもらった』**12時出発したが途中にわか雨に会い入口まで戻って雨

宿りをした。雨がやんだ事から13時に出発、浄土平に15時着、女高生の貸し切りバスの中の女高生の数人が『くるくるパーの手真似』を送って来たのには腹が立った。（スカイラインの急登を自転車を押して居る姿がどう見てもバカに見えたのか）

浄土平の東小富士、一切経山（標高1622m）を登った。ここで偶然にも母校からこの4月に福島の高校に移動になった早川心平先生に声をかけられた。課外授業で生徒10人位の付き添いであったとの事。我々2人は気づかなかったが先生から声をかけられたのがうれしかった。

心平先生の思い出として入学初日の物理の授業で怒られたのを鮮明に覚えていた。『“お前何やっているんだ” なに・・・無意識にやっている・・・無意識が一番悪い・・・』

浄土平から下り坂になり、いきなり晴れから濃霧に変わった。一寸先が見えなくなるとはこの事かと思った。下り坂を3時間ブレーキのかけっぱなしでその上湿気もあり、ブレーキが利かなくなったのには困った。どうにか高湯温泉（玉子湯旅館）着いた。早速宿の交渉、初めは米支給で220円（1人）と言われたが200円にまけてもらった。高校2年生が病気養生に来ていた部屋に相部屋になった。一週間泊まっていると言う、病気とは言え贅

沢だなあとと思った。夜オールスター戦を見る。(相棒がその後結婚してからこの温泉宿に家族連れで何度か訪ねたと聞いた。)

6日目(7月28日)高湯温泉～福島市(青年会館泊)約20km

旅館を出発時、米を渡し食事付き宿代400円(2人分)請求されたが昨夜髭のおじさんが200円で良いと言ったはずと言ったら、200円になった。安く上がって良い気分で朝風呂を同室の高校生と3人で入って別れた。

宿を8時に出発した。1km下った所でパンクした。直すのに苦労した。

磐梯スカイラインを出て福島に入るとリンゴ畑が一面に広がっていた。

良く見ると手の届く所に食べごろの赤いリンゴが連なっている。人も居ない、車も走っていない、採らない手は無いだろうと自転車を降り手を伸ばして2個ほど戴いた。取り立てのせいかあまり美味くはなかった。その後相棒と言い争いになりケンカ別れをした。その時の所持金が200円になり、今晚からの飯は？宿は？心細くなった。県庁に12時に着き、屋上に行く“なんと！なんと！”相棒が居るではないか！これにはびっくり！結局別れて3時間後に開出来て安堵した。1升の米を持っているだけで困っていたようである。

(屋上で会えた！！何とかは高い所が好きと言うから分かる気がする))・・・

(ケンカの原因は記してなかったが真夏の日射、長時間の自転車と飯盒飯の用意、おかずは缶詰、梅干入りのおにぎり、これじゃ疲労も限度か！ケンカになっても仕方なかったか)

県庁の庭で裏磐梯にこれから行くと言う女高生と話をした。

その後阿武隈川のほとりで昼食とした。それから途中道を間違え川俣まで行き、そこから引き返し浪江町に向かった。

道端のお店で水を貰った時アルバイトの女高生に声をかけられた。『磐梯スカイラインでバスの中から我々2人が自転車に乗っているのを見たと言う』バスの中で『くるくるパー』の手真似の女高生では無かったようだ。

津島で泊まるため宿探しで小学校を訪ねたが誰もいないので区長を訪ね事情を話し宿のお願いをした。近くの青年会館が良いと言われた。

区長の家で夕食をごちそうになった。家族は『青年会館は夏祭りの練習でうるさいので家に泊まれ』と言ってくれたが区長は子供が居るからと”うん“と云わず毛布2枚をもって青年会館に案内してくれた。青年会館では10人位で太鼓や鐘で夏祭りの練習をしていた。明日NHKが撮影に来ると言っていた。やはりうるさくてなかなか眠れなかった。

7日目(7月29日)福島(富岡街道)～浪江～いわき市小川町約130km

6時出発、8時ごろから雨が降り始め、今日中に家に帰れるか心配になった。

浪江の農家で昼飯を食べさせてもらった。米を渡そうと思ったが受け取ってもらえなかった。2時に出発、体力も限界である事からヒッチハイクが良いと言う事になり、小型トラックを止めていわき市平まで乗せて欲しいとお願いしたが“荷台に乗ることに成るので警察に見つかるとうるさい”と断られたが、何故か1km先で待ってくれて乗せてもらった。

(運転手さんよほど良い人だったのでしょう)。いわき駅で下ろしてもらった(15時着)。駅近くの官舎の相棒の姉の家で食事をごちそうになった、そこで彼と別れ小川の家に戻った。暗くなっていた。日焼けして地黒の顔がっそう黒くなると皆にはひやかされた。

“無事到着 “万歳・・・万歳・・・万歳” でした。

あとがき

計画のきっかけになった『次郎物語（下村胡人）』が気になり図書館で文庫本全5冊を借りた（余りの長編にびっくり！）と2022年7月再発行、初版昭和11年1月、85年後に再販とは驚きです。超名作なんでしょうね。借りた本はほぼ新品同様、あまり読まれて無さそうでした。無銭旅行の文字は無く『無計画の計画』となっていた。しからば無銭旅行と言う言葉をどこから仕入れたか全く記憶に無い。ネットで見ると明治時代流行したとあったが、でしょうね！『お金ではなく銭』となってますからね。

『次郎の冒険は筑後川を徒歩での探索』兄とその友人との3人、この冒険は次郎にとって小さいものではなかったと書いてあり、その後『問題ある先生』と闘う場面が書かれていたが“さて！自分はどんな変化があったか”は記憶に無い。ただ『山での“こんちは”から始まる会話、タダ飯、タダ泊まり等の温情は考え深いものがあったのではまた高校卒業と同時に何とか成ると憧れの東京へ、そして居座って60余年、成れの果てに千葉の人になった』

この旅でいろんな人にお世話になれたのは田舎人の『人の好き』と田舎では当時高校生は真面目であったので信用されたのでしょう（学帽は有効であった）。

- ・無銭旅行で持参した1000円は今の3万円程度か（2人分で7日間）食事は自炊、泊りをタダにしてもらった。
- ・次郎達が持参したのは40円（今の10万円程度か）、3人で6日間。昼弁当付き食事と泊りで謝礼金を渡したと言う。
- ・次郎達が泊めてもらった次の日の村長に名所を案内された。私共も同じように牧師に名所を案内された。
- ・朝と夕食は薪を拾い、火をおこし飯盒飯、おかずは缶詰、昼は梅干し入りのおにぎり、7日間ほぼ同じメニュー。後遺症と言うか缶詰は今となっても苦手なものでめったに食べない。

現代版登山での無銭旅行の話

無銭旅行という言葉は最近では耳にしないです。死語に近いでしょうね。昔流行したヒッチハイクも同じようなものではないでしょうか、今でも山の世界には『行動の手段として』残っていますよね。皆さんも会ったり、聞いたりした事はあるはずですよ。例として定年後100名山踏破を目指し、車を改装し（ねぐら）、1度に5峰・6峰とか、まとめて登り、キャンプ場、道の駅で自炊、安くあげ、しかも短期間に完全制覇をする。『合理的ですよ』また昨年10月に苗場山で会った人の例、近くまで普通電車を利用、駅広場（無人駅）でテント泊、自炊、そして持参した組み立て自転車で登山道入り口まで。『2つ共お金はかからんですよ』形を変えた無銭旅行とは言えないですかね。

コロナ禍前に車で東北1周を計画したが、もたもたしている内にコロナ禍で頓挫しましたが・・・『100名山の残りの登山』と『昔、結構多かった東北での設計した建物巡り』も良いかも思っていたが。コロナ禍明けに再チャレンジ？“さあ一どうでしょうか、無理ですね。私の百名山はこの時の磐梯山から始まり昨年（令和4年）10月14日（80歳の誕生日の前日）苗場山で85峰を達成しましたが完全制覇は無理でしょう。

（私の人生と一緒に、いまいちで根性無しかな）

故郷のレジェンド『アメリカンドリーム物語』 【国府田敬三郎伝記映画、記念酒作り、高校の同級生、そして少女マドンナ】

令和5年(2023)7月

7・8年前のある日アメリカ在住の高校の同級生から電話で『お前の町の出身でアメリカで成功した国府田敬三郎知っているだろう、その人の伝記映画のプロデュースする事になった』国府田敬三郎とは本稿で『私の登山ルーツ』の中でお国自慢(いわき市小川町)として『ニッ箭山と草野心平』紹介しましたが3つ目がこの本文の主演となる『アメリカンドリームを果たしたレジェンド』である。

いわき市小川町出身で教員をしていたが明治の後半25歳(1907年)の時単身で渡米、約20年かけてカルフォルニアで大規模な米の生産技術を確立、『国宝ローズ』の大量生産で事業を成功させたがその後太平洋戦争が始まり日本人と言う事で収容所に入れられ、農地も没収されたが戦後カルフォルニア州を相手に損害賠償請求して、少しずつ農場を再開し、そして全米一の水稻事業の会社にした。地元では『ライスキング』呼ばれていたと言う。82歳で亡くなったが今も会社は健在で孫が経営し3000ヘクタール所有していると言う。私が小学5・6年生の頃国府田敬三郎が凱旋帰郷した時に全生徒が駅で日の丸旗を振って迎えたのを覚えている。

【ちなみに、アメリカの農業といえば飛行機を使ったダイナミックな農作業の写真、映像を思い浮かべる方も多いと思いますが、飛行機で米の種を播く手法は国府田敬三郎が確立した湛水直播という技術だそうです。】

もう一つ悲しい話ですが小学の同級生に国府田アキ子と言う子が居ました。

中学へ進級まもなく病気で亡くなった。元気なやんちゃな子でみんなが好感度で初恋と言

うか、憧れと言うか、少女マドンナ的存在だった気がする。その死は大きなショックであった事は記憶にある。この子の家は私が通った小学校の隣で精米所をやっていた。即ち国府田敬三郎の実家で実兄の孫であったと思う。



国府田敬三郎

高校の同級生井出氏は米国の日立製作所に努めていた。何故映画のプロデューサーをやる事になったのか不思議であったがどうもカルフォルニアで国府田農場を継いでいるお孫さんと懇意になったのでは思う。彼は日立製作所に入社し、所属は工場のライン設備の設計担当そして英語が得意であったことからアメリカ進出に伴い新工場建設の担当になり渡米。工場建設、採用、

現地調達、製造などを歴任し9年間で1000人の従業員までに拡大させロスアンゼルス事業所長就任、彼は異例の出世をした様である。20年位在住したが現在は退職しひたちなか市に住んで居る。

彼の出身は小川町に隣接する川内村（草野心平が晩年過ごした）で高校に通学が無理な事から小川町（敬三郎のふるさと）に下宿をして居た経緯があった。そんな縁からも国府田啓三郎のお孫さんと親しくなったと想像出来る話である。

そして映画が完成し、私も試写会に有楽町までに見に行ったり、DVDを貰ったり、田舎でも市役所を挙げて映写会もやり、田舎の中学の同級生に協力をお願いしたりもした。

ついでにもうひとつ、その国府田農場のブランド米『国宝ローズ』をカルフォルニアから日本に持ち込んで福島県二本松の酒蔵と組んで純米大吟醸『Uka（うか）』と言うブランド立ち上げた。私も買って飲みましたがなかなかうまかったです。4合瓶3000円は安くはないが。アメリカに居る娘も知っていたのでそれなりに売れているようです。日本でもネット販売はしています。酒蔵探しには井出氏も相当苦労したと聞きました。

東葛山の会の皆さん今年の3月の会山行『玉原高原スノーシュー』のペンションで私がふるまった日本酒覚えていますよね。講釈付きでしたので。

それが純米大吟醸『Uka（うか）』です。



我がまち白井市の自慢『清水口池のオオハクチョウ』

令和4年(2022)6月記

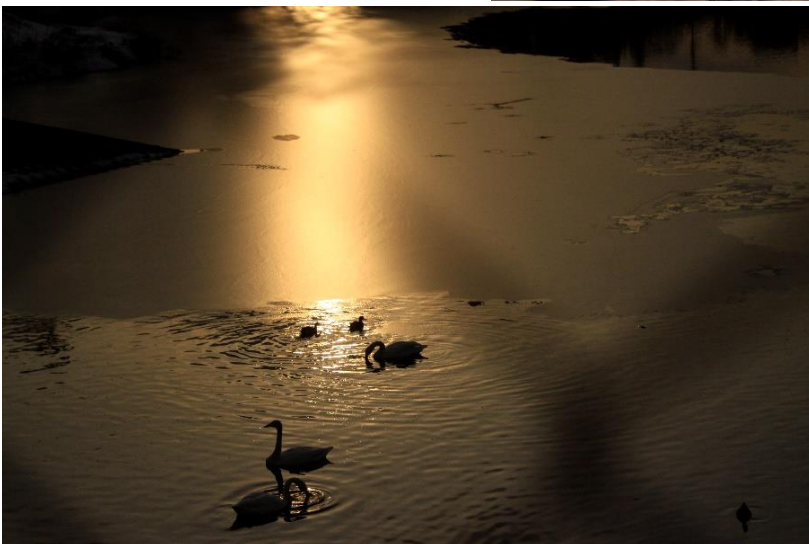
TV番組の『おくに(県)自慢』で、あるタレントが『千葉は日当たりが良いところです』とピント外れの話をしていましたが、確かに千葉には全国的な知名度のある名所は無いですね。ディズニーランドは東京が付いているし。その目線で白井市の自慢はと聞かれても見当たりませんね。北総線は相変わらず高いし、何故こんな所を住処にしたのかと問われれば『自分の家を設計したい為に更地を探し回った結果、手頃の値段の公団の分譲地に辿り着いた』と言う事になります。当初は住所が印旛郡白井町でしたから私自身も初めて聞く町の名前で、年賀状を見た友人から『千葉の何処にあるのか、都落ちか』と揶揄されましたがでも住み始めて24年、『住めば都』“日当たりが良い”はさておき白井もそう捨てたものでもない。

【後日談ではあるがこの西白井が“なんと”『住みやすい街大賞2023年度2位(シニア関東編)』に成りました。ちなみに1位は浜町(東京)、3位は大泉学園(東京)でした。住んで居る私にも又周りに聞いても思い当てる節は全くありませんが事実の話。

今回は自慢の『清水口池の白鳥』を紹介させていただきます。 夕暮れの清水口池

今年もシベリアから越冬のため3,000kmの旅をして12月11日に7羽が飛来、この清水口池に徐々に増えて1番多い時が2月中頃で55羽、そして暖かくなる3月頃北帰行が始まり4月中頃には居なくなる。

毎年同じ事が続くわけです。この地が日本に飛来する白鳥の南限地(太平洋側)で、印西市本埜(田んぼ)の飛来地は有名で



数は多いがコハクチョウのみとの事、ちょっと迫力が違うかな！

観察時間は白鳥が行動する 8 時と 15 時の餌やり時で、日中はじっとしているので見ごたえがない。朝 6 時ごろは空を舞うとの事ですが寒冷時の早起きは厳しいですね。ユーカリの大木の森の中の水面で舞う白鳥の風景は中々なものです。

平成 6 年 12 月にこの池に 6 羽の白鳥が飛来し『白鳥を守る会』が出来、それ以来、日に 2 回餌（古米、野菜、パン等）やりを続けている。餌は補助金なしの自前で調達し、今迄どうにか継続してきたが残念ながら今年いっぱい解散との事、今後餌やりはどうか、白鳥が飛来しても居ついてくれるか、心配ですね。清水口池では白鳥以外カモ類等 30 種の鳥類が観察できるとの事です。

写真サークルの先輩であり『白鳥のアマチュア写真家武石正一氏』の写真を紹介します。白井市では有名な方で新聞でも何度も紹介され、又白鳥の個展も開き、公のイベント等の写真撮影などの依頼を受けており、現在も活躍中です。

撮影地：清水口池



1, 思い出の山

俺 1 番 思い出の写真【雷鳥と富士山】北岳（3193m）にて

平成 31 年（2019）記

“ 雷鳥と富士を崇める時を得て ”・・・北岳山頂にて



2008 年 7 月 31 日撮影の雷鳥と富士山（北岳山頂付近にて）

巣ごもりで写真を整理していた時たまたま新聞の切り抜きを発見し、記事と撮影日（登山）が 3 日違いの幸運の写真を『思い出の写真として』を紹介しました。[登山者の憧れ“雷鳥と富士山”を北岳（日本で標高 2 番の山頂）で撮る]

2008 年は私が東葛山の会に入会 2 年前の話です。友人 3 人で 7 月 29 日から 3 泊 4 日北岳・間ノ岳・塩見岳の縦走計画、その前日の 28 日の朝日新聞の記事です。

29 日に出発し、まさか『その雷鳥に出会える』とは思ってもみませんでした。

そのまさかの雷鳥に北岳山頂付近で出会えました！“それも富士山を背景にカメラにおさめられた” あの時の感動は今でも良く覚えています。

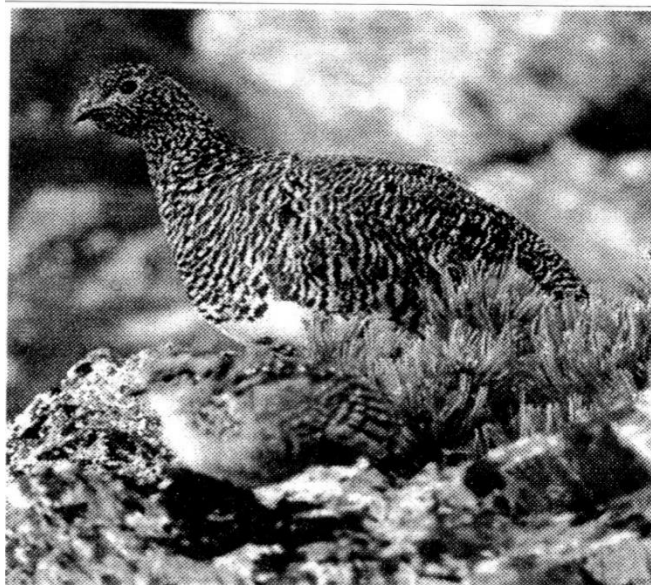
北岳近辺で前年秋には 1 羽も確認されず、絶滅の心配の中、発見されたと記事に載ったのが 7 月 28 日、2 か所でそれぞれ子連れで 1 羽ずつ、そして 3 日後に山頂で撮影したことに成る。この幸運は宝くじで言うと 2 等賞ぐらいか、それともコロナ感染の確率と同じぐらいか “ギョギョ”

撮影日 7月31日 偶然にも3日前の新聞

2008年(平成20年)7月28日

月曜日

享月



北岳ライチョウ生きていた

①ハイマツが茂る岩場で辺りの様子をうかがうライチョウの親子②登山者でにぎわう北岳。いずれも山梨県の南アルプス、武田町



山梨県の南アルプス・北岳(3193m)で姿を消したと思われていた国の特別天然記念物ライチョウが元気に生きていることが、信州大学の中村浩志教授(鳥類生態学)が今月実施した現地調査で分かった。昨年には1羽も確認できず、「絶滅したのでは」と心配されていた。発見されたのは山頂と北岳山荘付近の2カ所で、それぞれ親鳥が数羽のヒナを連れていた。ヒナは孵化して3週間

ほどで、テニスボールぐらいの大きさ。急斜面をチヨロチヨロ動き回り、ハイマツや高山植物をついばんでいた。信州大が調査を始めた81年には、北岳周辺に推定で約80羽が生息していたが、ここ十数年で激減。キツネなどの天敵が増えたことに加え、サルやシカが高山帯に上るようになり、ライチョウのえさとなる高山植物を食べていることなどが原因とみられている。中村教授は「元々、高山にはいなかった動物がライチョウを追いつめている。駆除などの対策を取らないと、南アルプスのライチョウは絶滅しかねない」と懸念している。

(編集委員・武田町)

登山者であれば誰もが憧れる小動物の出会い(特に雷鳥は別格)や山頂での富士山の眺望、これ等は登山者の最高の醍醐味でしょう。最高峰富士山(3776m)、北岳(3193m)は2番目 標高差583mの違いとは言え、富士山の大きさ、凄さもあらためて知らされました。この写真は小さな公募展示会(ナススポーツ)で優秀賞(2位賞金有り)、やサークルの展示会でもそれなりに話題になり、見学者からも分けて欲しいと言う人も居ました。私には珍し

い事です。

1枚の写真にもいろんな歴史、物語があります、展示会では解説は出来ず、こんな形も悪くないなあと思い紹介させて頂きました。

雷鳥生態の豆辞典

国の特別天然記念物に指定されており、絶滅の危険にさらされている。

その原因が我々登山者の食べ残しを求めて天敵の狐やテン、サルが高所に侵入してきた事のように。我々が犯人とは驚きましたね！ 遺憾ですね！

日本での生息地は本州中部（妙高山、飛騨山脈、御嶽山、赤石山脈）標高 2200mから 2400mの高所に住み 1 年中住処は変えない留鳥です。日中は天敵から隠れるためにハエマツの中で過ごし、朝方エサを求めて活動するようです。

夏場のエサは花のつぼみ、草木の新芽や実を冬場は雪の中の植物を食べる。

夏と冬では羽色が変わるのはよく知られており夏場は岩肌の茶褐色、冬場は雪の白色（冬会うのが難しい！）で天敵から身を守る保護色です。

雷鳥のヒナ 5羽全滅（中央アルプス）朝日新聞 2020・7.5

全滅されたとする木曾駒ヶ岳で半世紀ぶりに見つかった雌 1羽からの『復活作戦』に取り組んだ自然環境事務所（長野市）が孵化したヒナ 5羽が全滅したと発表があった。昨年のヒナはテンなどに捕食された。今年は雨や天敵から守る『ゲージ保護』を計画していた矢先だったとの事、6月30日の調査で 5羽の死骸が見つかった。巣の近くのセンサーカメラカメラから 10匹のニホンザルが確認されたと報じられた。



雷鳥をくわえたニホン猿
（朝日新聞より引用）

冬場白色に変った雷鳥（ネットから引用）



東葛山の会歴史的イベント “北アルプス双六小屋集中登山”

【100名山7峰・雲ノ平・高天原温泉・黒部源流7コース、20人参加】

東葛35周年記念山行平成23年（2011）8月

令和5年8月記

例会で35周年記念山行として、ある女性会員が『新穂高側の北アルプスは百名山が多いのでいろんなコースを選び皆が一同に双六小屋に集る集中登山はどうでしょうか』と言う提案があった。私もこの場に居たので確かに100名山が幾つかあったはずと頭をめぐらせた。

その時皆から周りから100名山の名前が挙がった。これは『素晴らしいアイデアだ』と私も思ったし皆からも絶賛の声が上がり大方の賛成であっさり催行が決まった。

夏山となれば7月末か、お盆前が良いが20人以上の双六小屋での予約が難しい事から8月28日小屋泊に決まった。高山植物は終わっているとか台風は大丈夫とか不満や心配もあるが止む得ぬ日程であった。総リーダーは安彦会長がやることに成り『各コースのチェック、留守本部の設置、緊急連絡方法、天候等での決行か、中止かの判断等大変だったようである。

各パーティのコース

【100名山7峰・雲ノ平・高天原温泉・黒部源流、7コース、20人参加（男9人、女11人）】

コース内の100名山 笠ヶ岳、鷲羽岳、水晶岳、黒部五郎岳、薬師岳、常念岳、槍ヶ岳、

1班 4人 5泊6日 8/24～29 高瀬ダム登山口

鳥帽子～野口五郎～水晶岳～鷲羽岳～黒部五郎～双六小屋

2班 4人 5泊6日 8/24～29 5泊6日 折立登山口

薬師岳～雲の平～水晶岳～鷲羽岳～黒部源流～双六小屋

3班 2人 4泊5日 8/25～29 高瀬ダム登山口

鳥帽子～野口五郎～水晶岳～鷲羽岳～双六小屋

4班 3人 4泊5日 8/25～29 4泊5日 折立登山口

黒部五郎岳～鷲羽岳～双六小屋

5班 4人 4泊5日 8/25～29 4泊5日 折立登山口

薬師岳～高天原温泉～黒部源流～双六小屋

6班 4人 3泊4日 8/26～29 新穂高登山口

笠ヶ岳～双六小屋

7班 1人 3泊4日 8/26～29 3泊4日 エビ平登山口

常念岳～牛首展望台～槍ヶ岳～双六小屋

2班のコースの場合 薬師岳～雲の平～水晶岳～鷲羽岳～黒部源流～双六小屋

私も入会して1年足らずと浅かったが槍ヶ岳、穂高岳は登ったので次はと狙っていた山が多くあり、早速計画を練り募集をかけたなら健脚男3人と女性一人の希望があったが男4人に女性1人ではと思ひ皆に相談の上低調に遠慮お願いした。

最初の計画は高天原温泉も入れたが『温泉に入るが泊まらず往復する計画』であったことも

あり執行部からの指摘があり削除した。またの機会と思ったが未だ果たして居ない。

エピソード 1: 夜行列車で富山駅下車、タクシーで折立登山口まで、朝から大雨が続いたがその中を 4 時間かけて 12 時半太郎小屋に着いた。従業員総出の歓迎を受け、着替えをし、濡れた衣類を乾燥室で乾かし、昼食を取りゆっくりしているうちに 1 時間ぐらいで雨がやんだことから予定通り薬師小屋に向かうか、お世話になった手前ここで泊まるか、すれば今回の目的 1 つ薬師岳登頂断念、話し合った結果 2 対 2 と別れたがリーダーに任せることに成り。つらい決断であったが低調にお礼を言って薬師小屋に向かった。2 時間半で小屋に着いた。小屋は 1 年前に経営が変わり新築の建物で女主人が迎えてくれた。ご主人は留守であったが県の救助隊員との事。

エピソード 2: 木道から落ちて左手中指の関節が外れました。

私事、その日朝から好天で素晴らしい風景、雲ノ平の木道を気分よく歩いていたが木道に湿気あったのか滑り落ち左手中指の関節が外れ、指先がぶらりと下がった状態、即ち皮でつながって居るだけ、慌てはしたが素早く右手で握って元に戻そうとそうと力を入れると意外とすんなりはまった、即ち元に戻ったのである。痛みは結構あったが我慢の範囲であったので安堵した。関節が外れたままであれば痛みひどくなり、我慢の限度を超え、ヘリを呼ばざる得ないとの事でした。そうなれば、この一大イベントは台無しになるところだった。周りは木道から落ちたのは気づいたが関節外れは気づかなかったようだ。

あとがき

この山行に参加できたこと。そしてこの企画を提案アしてくれた人。そして全体を纏まてくれた総リーダーに感謝します。ただ残念なのは提案者が決行前に退会したことです。

2011 年東北大震災の年で 6 月までは登山の自粛期間もあり、登山欲望の面でもグットタイミングでした。スケールの大きさも内容的にも他を抜いて素晴らしい山行であった。

個人的にも東葛山の会としても歴史に残るイベントであったと思った。

数年後に八つが岳集中登山、筑波山集中登山をやりましたがそれぞれ良かったこともありましたが盛り上がりは今一であった。

14 年前の事情は今とは違って皆若かったし、100 名山への興味度すなわち制覇を目指す人の方が多かった事もあったように思う。

“危うい”『夫婦登山その1』 劔岳 (2999m)・立山連峰 (3015m)

【失敗のスパイラルと2つの出会い】

登山日平成19年(2007)9月 3泊4日 2018年記

北アルプス劔岳と言えば100名山の中でも『行ってみたい山の人気・難易度』共にトップクラスであるが何故か近年『東葛山の会』では耳にしないですね。5年位前の四元さん、鈴木かつ子さん、木村さんの3人が最後でしたかね。あるツアー会社では劔岳の登山者募集はいきなりではなく塩見岳参加が条件と聞きました。人気、難易度、故の安全のための方針なのですかね。1つの山には1つの物語があり、そして単独登山の方がよりドラマがある様に思われます。私の場合は『東葛山の会』に入会前ですから、10年くらい前になるでしょうかね、ヘマの連続で恥ずかしいやら危ないやら、失敗と楽しい出会いの物語です。

1日目 9月末、紅葉で知られた写真のメッカ『仙人池(裏劔)』を目指して室堂の劔御前小舎に宿泊した。そこで真砂雪溪(下り坂で30分歩く、かなりの難所)の情報を聞いたところ『今年は積雪が多いので6本アイゼンでは難しい』との話。慣れない連れに危ない目に合わせる訳にもいかず、やむなく目的地変更し、立山連峰で我慢かと思ったが『岩場で難しいが劔岳はどうか』と連れに相談したところ『私が無理と思ったら直ぐに引き返す』との条件が付いたが了解の返事。当時どうしても行きたい山の1つで山の会で登る予定であったが直前に2週続けて槍ヶ岳・裏妙義山の登山で疲労万満杯から『帯状疱疹とぎっくり腰』でやむなくドタキャンした。仕方なしに単独山行で登るか躊躇していた時期でもあった。



2日目 劔岳アタック コースタイム 9:00 登り 570m 下り 570m

失敗その1：計画書の直前の目的地の変更
(計画書・地図無し)

失敗その2：朝食後、出遅れて7時半に出発。これがまずかった(コースタイムの間違い)、この事が下山でえらい事になる。(もっと早い時間に出るか、劔岳に近い劔山荘に宿を変更すれば下山後2時間短縮出来た)

天候は晴れ、小屋を出て一服劔まではゆるい下りと登りが続き、そこからは劔岳の本領、すべて岩塊の直壁の連続で梯子有り、鎖あり、変化に富んでいる。そして登りの難所『カニのタテバイ』と呼ばれる鎖場で垂直の岩壁である。

『足を踏み外せば待っているのは死と云う恐怖』を感じながらも何とか登り切って頂上に着いた。2人とも槍ヶ岳、奥穂高での岩場の経験があったのが良



かったかも。紅葉期であり、それなりに混んではいたが往路、復路が一方通行でそれに遅かったせいもあり、それほどラッシュではなかった。頂上は狭かったが平坦地で10人くらい居ましたが、何と言ってもすごかったのは360度のパノラマ、北アルプスの山なみが一望の絶景でした。居心地が良かったこともあり遅くなって、残っていたのは2人程度で14時山頂を後にした。そしてしばらく下ったところで最大の難所と言われている『カニのヨコバイ』が待っていた。

失敗その3：『蟹のヨコバイ、』鎖にぶらさがって足場を探すが見えない事から見つからず、周りに人は見渡らず必死のドタバタ劇であったが、“なんとそこに白馬の騎士”（若いカップル）が現れて難を逃れる事が出来無事下山出来た。事前学習が必要！

出会いその1：白馬の騎士とは映画『劔岳 点の記』の撮影スタッフ（若者）で、彼女との登山デート、彼女は岩場が初めてなのかロープワークで助けられながらの登山であった。そしてすったもんだしながらも、何とか下山、途中の劔山荘に着いた。

失敗その4：出発が遅かったので下山後を考えて、この小屋に泊る予定にしておけば良かったが荷物を昨日の御前小屋に置いてきたので2時間かけて戻る事になった。

失敗その5：ここまですれば泊まる予定の小屋までは下りだし、さほど時間はかからないと思込み、そこで喜びの『ビールで乾杯』“それが大失敗”ビールは水の代わりにならない事は解っているのに水を買わずに出発した。両方買えば何事も無ったのに1つしか買えない貧乏根性か。緩やかな下りが続き途中から上り坂になり、思ったより時間がかかり、その内だんだんと喉の渇きがきつくなって来る。ビールへの欲望と水代をけちったため、後悔は先に立たず、水を貰いたいと思っても人にも会えず、のどの渇きと疲労の闘いであった。それでも何とか劔山荘から2時間かかり暗くなって5時半に小屋に着いた。休憩が入って11時間かかってしまった。



3日目 立山連峰（大汝山・雄山 3015m）縦走 時間 6：00

出会いその2

次の日は立山連峰の縦走で思いがけない素晴らしい出会いがあった。

雄山の頂上の祠のところで老男性とちょっとしたことから話が始まり、それが何と高校の4年後輩で従弟のクラスメートとの事、住んで居るのが隣の部落で実家から徒歩 20 分程度、ただ子供の頃は隣の町（今は合併し同じ町）であった事から面識はなかった。彼は退役自衛隊で、車を改装して寝泊まりしながらの 100 名山登攀を目指していた。南米の最高峰アコンカグア（6,962M：アマチュア登山の限界）・キリマンジャロを登攀、福島県の登山大会で優勝の実績の持ち主、そう云われれば彼の事は従弟から『すごい山男の友達が生居る』と聞いた事があった。一緒に下山し、室堂のレストランでコーヒー共にしてそれから別れた。明日は五竜岳を登ると言っていた。

“危うい”『夫婦登山その2』 十勝岳（2077m）登山

十勝岳・大雪山・利尻山登山と礼文島散策

平成 18 年（2006）7 月 16 日 4 泊 5 日 2018 年記

失敗その1 夏山でも下山時間 15 時着は守るべし

失敗その2 頂上に着いたら即、下山道を確認すべし

羽田発 7:30 発、千歳空港からレンタカーで登山口迄、出発は何だかんだと 11 時過ぎ。それから歩くこと約 1 時間、7~8 人の下山グループに遭遇、その中に驚くなかれ、『かつ子さんがいるではないか。』そうです東葛山の会のメンバーに偶然にも会ったわけです。私はその時まだ山の会に入っていなかったので他の人は知らなかった。かつ子さんとは写真サークルで一緒。

この時間登山者が少なかった。登りで会ったのは若いカップル 1 組のみで追いついて行ったが、間もなく下山したので登頂しなかったように思えた。頂上に着いたのが 15 時過ぎ、人っこ 1 人見当たらず、霧で遠景が見えないありさま。日没 19 時までには余裕ありと踏んでいたが、アクセデントがここで起きた。

連れが『下山はこちらよね』と言ってさっさと歩きだした。登る時も登山道両側にロープがあったことから確認を怠り、無意識にそうだろうと思いそのまま後を追ったのが大間違い。しばらく歩くと何となく景色に違和感を持つが歩き続け、その内天候が崩れ、ヒョウが降り始めた。結局標識は見当たらず、あるところまで 40 分は下ってしまった。反対方向の美瑛岳周り 4 時間半コースに向かっていたようだ。

ここから 1 時間で頂上に引き返し、予定のコースを 2 時間半かけて無事駐車場に着いたのは 8 時ごろであったか暗くなっていた。（下山しても暗い中駐車場探しに手間取った）

そもそもこの時の計画は大雪山、利尻岳、礼文岳その他観光を含み 1 週間の計画であったが、寸前になって健脚の山友が『もったいないから、その日に十勝岳も登れよ』のアドバイスに乗って、昼近くに登り始めたのが大失敗。下山してからの旭川の寿司屋で連れの攻めも大変であった。引き返す難しさをしみじみ知りました。（傷は浅い内、わかってはいたが！）



思い出の山エベレスト街道トレッキング『カラパタール(標高 5,550m)登頂』

(徒歩片道 60km、標高差 2,893m、往復 14 日、ツア 20 日) 単独参加

平成 19 年(2007)年 11 月、2017 年 3 月記

首都カトマンズから小型飛行機で登山口のルクラ (2,652m) へ、14 日間山小屋泊の自炊、登山者 7 人、ポーター 8 人、総勢 15 人のキャラバン隊『カラパタール』目指し歩く、歩くの山旅 まるで真上を見上げる様な標高 8000m 級 (6 峰) の絶景ヒマラヤの山なみ、1 日の徒歩は高山病順応の体ならし含め、5~7 時間、荷物お任せの大名山旅。この地は 10 月~3 月までは乾季、登山の絶好期の反面乾燥で登山道のホコリは半端ではない。マスクは 1 時間かからず、真っ黒となる。(風呂、シャワーなし・洗濯なし) より大きな難は、**酸素 1/2、頭痛、下痢等の高山病** (前々日の登山者 2 人の死のニュース) 等、そして頂上アタック、『“うおー” あれがエベレスト』“大感動”

(登山者登頂 5 人、棄権 2 人他にポーター 1 人棄権)

[憧れのホテル・エベレスト・ビュー (標高 4500m)] もう 1 つのエベレスト絶景ポイントの宿 (登山口から徒歩片道 3・4 日の山の中の豪華シティホテル級) 宿泊していたホテルの設計者の 10 回忌の家族・縁者 (10 人) との出会い。カトマンズのホテルでのツア会社及びホテル・ビューのオーナーとの出会い等。

【エベレスト(中央奥:8.849m)、ローツェ(右 8,516m)] カラパタール頂上



ツア名 : 『エベレスト大展望 カラパタール登頂 20 日間』 2007 年 11 月

【憧れのホテル・エベレスト・ビューに泊まる】主催ヒマラヤ観光開発
(ホテルのオーナーであり、ヒマラヤのドン・キホーテ：宮原巍の話はホテル建設の話とともに後半に記載しました)

【エベレスト街道コース】

季節は乾季、晴天が続く中、”驚くなかれ” 8,000mのヒマラヤの名だたる名峰冠雪のその山なみの風景は途切れることなく 14 日続く、まさに山旅の醍醐味ではないでしょう。

【カラパタールとは】エベレスト望む独立峰で 360 度のパノラマの絶景地であり、

エベレスト登頂へのベースキャンプに隣接する。登山道は積雪なく、危険な場所もなく、登山道をひたすら歩く、歩くの長丁場の体力勝負。

【メンバーの構成】登山者男5人、ガイド1人、サダー(現地リーダー)、シェルパ2人(登山者のサポート)、コック2人、ポーター3人(荷物運び)計 14 人男のみ、その他ゾッキョ(ヤクと牦牛のかけ合せ)が3頭が荷物運び加わった。

ナムチェ、タンポチェまでの登山客は多かったが、カラパタール登頂の登山客は意外と少なく、日本人登山者に合ったのはアミューズのツアで下山組 9 人のみ。日本人は長期休暇の難しさからか、ほとんどがリタイア組と思われる。

【気候】ネパールは 10 月から 5 月までは乾季にあたり、雨は降らず気候は安定しており、日中は半袖、夜は氷点下3度位まで冷え込む、乾燥は半端ではなく 埃はひどくマスクは 1・2 時間で真っ黒状態、メガネをかけるが自分の息で曇り、対応のしようはなかった。帰って来て洗濯 2 回位では落ちなかった。雨季は高山直物が多いが虫類なども多く登山客は少ないようである。

【宿・食事】山小屋は6畳程度の 2 人部屋造り付けベット。寝る時湯たんぼが用意された。山小屋でも食事は出しているが我々のツアは食事担当のコックが食材を持参し、料理を作ってくれた。(おいしかった記憶はない)

朝食:味の薄いおかゆ、卵料理、大根・ニンジン等の野菜、トースト(ジャム、はちみつ)、紅茶、コーヒー

昼食:サンドウィッチ、魚の缶詰、サラダ、紅茶、コーヒー

夕食:ご飯、野菜炒め、カレー、桃等のデザート、紅茶、コーヒー

* デインポチェ(4,040m)で禁酒令出された。(高山病対策)

【便所】山小屋の外のバラック小屋、ドアを手で押さえながら用をたす、そんな感じ・水かめが埋めてあり、その上にもみ殻、枯葉が敷いて、足場として2枚の板をまたいで用をたす。昔の田舎や古い山小屋を思い出す。

【高山病対策】カラパタールの頂上は酸素量約半分(エベレスト頂上は 1/3)

ツア会社の勧めで『三浦雄一郎の低酸素室』の体験をした。

低酸素室で運動(自転車漕ぎ)をし、標高 6,000mの酸素環境をシミュレーション をする。2回ほど体験したが問題なかった。高山病は体力ではなく体質とのこと。その対策は高度順応と水を多く飲むこと(日に 4 から 5L 程度) 登山中はパルスオキシメーターで酸素量 60%以上を定期的に確認しながら 歩く。富士山は頂上には滞在しないので参考にし難い。

今回はツアー客は男 7 人で内登頂 5 人、脱落2人+ポータ 1 人)。

平均的にも 3 割から 4 割は脱落者が出るようです。脱落者はポーター付き添われ 即下山、場合によってはヘリを呼ぶことになる。(今回 1 人は保険でヘリを呼んだ)5 日目ディンボチェ(4,040 m)を出発後全員下痢状態になり、うんち場探 すが樹木がないせいもあり、見渡しがよく困っているとシェルパが案内してくれたのが大きな石の裏側、ティッシュペーパーとうんちがいっぱい。通常『うんち畑』呼ばれているとの事。登頂前々日のロブチェ(4,930m)の山小屋で高山病で酸素吸入しながら苦しんでいるところへ重大ニュースが飛び込んで来た『その上の山小屋ゴラクシェツブ(5,100m)で 2 日前に高山病で日本人とドイツ人が亡くなった



【カラパタール(右側)とゴークョピーク(左側)のマップ】

参考:チベット側からのチオランマ(エベレスト)の全景(写真は他より引用:本旅と無関係)

【到着したカトマンズ空港でのトラ】

2万円の陶替えをしたら1万5000円分ルピーが返ってきた、すなわち

5,000円分のおつりが誤魔化せられたことになるが事前にガイドから注意を

受けていたのでその場で確認をして難を逃れた。またカトマンズからルクラに行

く飛行機では荷物を運んだからと言って裏に呼出されチップを請求された。

【1日目 "いざスタート" ルクラ(2,652m)からパクディン(2,652m)へ】

起床7時、出発8時、歩行は 4 時間 ともかくゆっくりペース、決して頑張らない、14日間の長丁場、無理すれば後が持たなくなる。また絶景山並みを堪能して もらいたいとの意図もある。

チオルデン(仏塔)はいたる所にあり、左側を通る。



【2日目パクディン(2,652m)～ナムチェ(3,440m)歩行6時間】

シェルパの里ナムチェ橋に巻きついたタルチョ(祈りの旗)



街道の最大の町ナムチェの集落に到着



集落の中の路地は車がないことから狭く、商店街風になっており、LEKIのストックを2本7,000円で買ったがスチール製のまがい品であった。

【3日目ナムチェ (3,440m)で街道で1番大きな村:高度順応ため滞在】

気温がマイナス10度かなり冷え込む、上下

の羽毛の防寒着を借りる。

標高8,000m級が5つが一望出来るシャンポチの丘(4,450m)

後方にエベレスト、ローツェ(8,516m)の山なみ、チョーオユー峰(8,152m)、カンチェンジュガ峰(8,586m)、マカルー峰(8,463m)、そしてアマダプラム(6779m)までが

山なみが一望出来る ”まさに圧巻”



最初に見えたエベレスト(左奥)、ローツェ(右端)



カンチェンジュガ峰(8,586m)



何とも気になる山アマダプラム(6779m)乙女の峯



マカルー峰(8,463m)



ナムチェの町の全貌



露店市場、品物はほとんどが人の手でチベットからヒマラヤ山脈を越えてくる



【4日目 ナムチェ(3,440m) ～ タンポチェ(3,867m) 歩行6時間】

徳島の40代男性がここでリタイヤ、ヘリでポーター付き添いで下山、登山は初心者で生き方を変えたいので会社を辞めてのチャレンジだったようでした。高山病予防のため、お酒はこれより禁酒

**【5日目 タンポチェ(3,867m) ～ デインポチェ(4,040m) 歩行6時間】**

学校 後方タムセルク峰(6,623m)



【6日目 デインボチェ(4,040m) 高度順応のため滞在



【7日目 デインボチェ(4,040m)～ ロブチェ(4,930m)歩行5時間】



タムセルク峰(6,623m)



【8日目 ロブチェ(4,930m)～ ゴラクシェツブ(5,100m) 歩行4時間】

ここで1人高山病のためポーター付き添いで下山(これで棄権2人目)頂上まで
後 445m残念酸素ボンベに助けられなんかもちこたえる。

元気のある人はもうひと頑張りでベースキャンプを見学



【9日目 ”いざ” 頂上アタック

ゴラ

サ



クシェツプ(5,100m)～カラパタール
(5,545m)登頂 歩行7時間】

ポートしてくれたポーターと一緒に



頂上周りの風景



【10日目ロプチェ(4,930m)～ ペレチェ 歩行5時間】



【12日目 デボチェ ～ ホテル・エベレスト・ビュー(3,880m)泊】

真っ赤に染まったエベレスト(左奥)とローツェ(右)



3年前の当時、ヒマラヤ観光開発(株)のエベレスト街道のツアは『憧れのホテル・エベレストビューに泊まる』をキャッチフレーズにしていました。

私どものパーティも下山途中、600m登り返しで寄り道をしての宿泊した。

外観はシティホテル並でそれなりに自然との調和は配慮されてはいるがヒマラヤの山奥には全く見かけない近代的な建物に驚かせられました。

そしてその絶景は評判通り、エベレストをはじめローツェ、アダムプラム等ヒマラヤの名峰のパノラマが眼前に迫って来るすごい迫力。

ただ内部もシティホテル並のにはあるが燃料事情により、エアコンは可動せず、石油ストーブ、バスルームはお湯は出ず、バケツのお湯で体を拭く程度でした。(オーナー及び設計者の計画と現実のギャップには苦笑い)

ホテル・ベレストビューの玄関アプローチ(シティホテルの様、ちょっと変?)



ホテルのテラス



【13日目ホテル・エベレスト・ビュー(3,880m)の風景(左端エベレスト)】



大食堂の窓越しにエベレスト(中央)、アマダプラム(右)の眺望

【14日目バクディン(2,652m)～ルクラ到着】

無事帰還を祝ってのサーダー(現地人のリーダー)との記念写真(満足の笑顔)



下山後感謝の意としてルクラで全員での打ち上げパーティ(ロッジの部屋を貸し切って)、食べ物、登山用具等の残り物をシェルパ、ポーター等にプレゼント、歌あり、酒あり、見よう見まねの現地の踊り、ドンチャン騒ぎ、会費 5,000 ルピー(1 万円)

思い出の山インカ道トレッキング空中都市マチュピチュ遺跡へ

(歩行距離 43km 3泊4日、ツア8日) 夫婦参加

平成15年(2005)6月、2017年3月記

インカ帝国の古代首都クスコ(標高3400m)から古代インカ道をテント泊登山者8人、ポーター13人、添乗員1人の総勢22人インカの歴史を辿るマチュピチュへの山旅

【インカ帝国とは】比較的新しく15世紀半から16半世紀(室町時代)に隆盛を誇ったが21人(他説170人)のスペイン軍に侵略されて滅亡。石と焼成レンガの文化に優れていたが『文字と鉄(武器等)』を持たなかったと言う。

【空中都市マチュピチュ遺跡とは】

スペイン軍の侵略を逃れ(他説あり)アンデスの奥地の隠れた断崖絶壁の頂に何故このような集落を創ったか！全体が石造りでその石はどこから運ばれたか！『その技術は・インフラは・そしてその生活は・文明とは』 “謎・謎・謎”

インカ帝国の首都クスコから直線で北西70km位置し、総面積5000㎡麓から標高差400mの所に600年前の石の建造物の遺跡である。その石造りの技術は現代でも通用する。創造を絶する困難な作業そしてその壮大な風景は見る者を圧倒する。1911年アメリカの歴史学者(インディジョーンズのモデル)が発見するまでの4世紀近く人の目にさらされる事のなかった非常にまれで幸運な遺跡でもある。



マチュピチュの全景像(他より引用)

- * 崇められていた太陽の神に近い高地あるこ、王族の避暑地と言う説もあり,最大750人位までが生活が可能であったようである。また侵略から逃れるために低い位置(裾野)から見えない隠れ砦でもある。
- * 40段の段々畑で農作物が栽培されたと言われている。飲み水の水源は当地にあり、作物用には雨水を貯めたようである。
- * マチュピチュは宮崎駿『天空の城ラピュタ』のモデルとも言われています。

【ツアー名】『インカ道トレッキングとワイナピチュ登頂10日間』（2007年6月）

【インカ道トレッキングとは】インカ帝国時代に『偉大なる道』と呼ばれ、エクアドルからチリまであったが今回のトレッキングはクスコから、峠3つ(4200m、3950m、3670m)を超え、全長43km、古代の中継地8か所の遺跡を巡り『ゴールは秘密の都市マチュピチュ』へ、

3泊4日のテント泊の旅（1日行程:10km~12km、6時間~8時間、標高差600m~1200m）

国立公園に指定され、入場料を払っての現地ガイドの案内、入場制限もある。

【気候】この地は4月から10月は乾季であり、雨は降らず、好天が続くが紫外線が強く、昼は20度位で夜は氷点下まで冷え込む時もある。空気の澄んだ満天の星空は素晴らしく、星も大きく近くに感じられた。道すがら見たこともない不思議な高山植物が多く、驚き、楽しませてくれた。

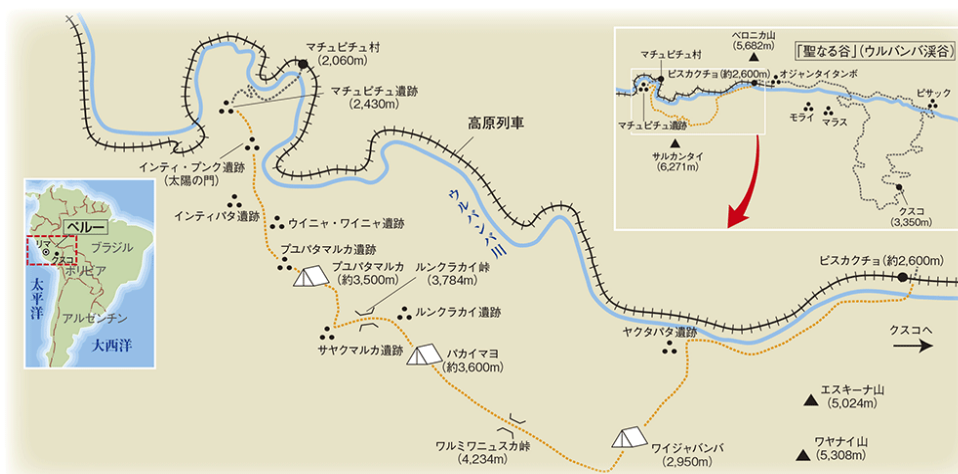
【食事は】:持参した食材を料理班のポーターが料理、我々は上げ膳据え膳である。

朝食:おかゆ 昼食:コーンスープ、サラダ、たら焼き、ケーキ 夕食:かぼちゃのスープ、サラダ、チキン料理その他日替わりメニューで肉類、魚料理あり。

上記は1日のメニューの例である、さほどおいしいとは言えなかったが腹が空くのでそれなり食べられました。中には香辛料が強過ぎ、まったく口に出来ず、苦しんでいた人もいました。

【ポーターとは・炊事・便所係】13人のポーターはテントから食材、そして登山者の荷物を運び炊事をしてくれる。便所は穴を掘り、運んで来た便座を置き、それ用のテントを張る使用後は埋めて終わり。サダー(リーダー)は日本に5年間出稼ぎで建築現場で働いていたことから日本語が堪能でインカの歴史と草花に詳しかった。

【インカ道3泊4日のトレッキングマップ】



スタート地点クスコ観光(インカ帝国の首都)



クスコ市内を見学



【1日目】 いよいよインカ道トレッキングの始まり、クスコから スタート地点ウルバンバ(2700m)車で移動、そこで案内人・世話役のホーター達と合流。

(徒歩 5 時間、10km、標高差 400m、テント泊)



【2日目】 トレッキング中 1番きつい『ワルミワニユスカ峠(4200m)』超え 冠雪のアンデス山脈のワカウィルカ峯(5800m)はやけに近くて 美しい光景に感動。

(徒歩 8時間、11km、標高差登り 1200m、下り 700m、テント泊)





手前の人影郡『”さあ””さあ”おひけーなさって』

【高山病】: 標高と疲労が加わり 65 歳の女性が急におしゃべりが止まらなく、嫌がる仲間にやたら声をかけ、中身の無い大声の掛け声に皆は逃げるが追い打ちをかける。ハイになるのも高山病の表情の1つとのことでした。

下山が進むとただちに回復。標高 4,200mの峠には留まらず 超えるだけだったのでこの程度で済んだようだ。

【3 日目】: 第 2 峠標高 3950mを超え、そして第 3 峠 3670mを登る苦しい 行程であったがルンクラカイ遺跡とサヤクマルカの遺跡の見学が見どころであった。

(徒歩 7 時間、11km、累計標高差 1200m、テント泊)



インカ帝国の遺跡



遺跡の遠方はアンデス山脈

4 日目

ブユバタマルカ遺跡、
ウニヤイワイナ遺跡
を見学、いよいよマ
チュピチュ遺跡へ

(徒歩 7 時間、10km、下り標高差 1500m、4日ぶりの入浴・ホテル泊)

正面玄関の『太陽の門』を通り、麓やルートからも全くその姿を見せなかった 隠れ砦『マチュピチュ遺跡』がいきなりに眼前に広がる。



アンデス山脈

マチュピチュ

観光バス道

インカ道

【物売りの子供】途上国にはつきもので、つづら折れの観光バス道に垂直の近道の歩道があり、子供たちはその道先回りをして同じ観光バスの窓で同じ客に何度もせがむ『押し売りの名所』となっている。



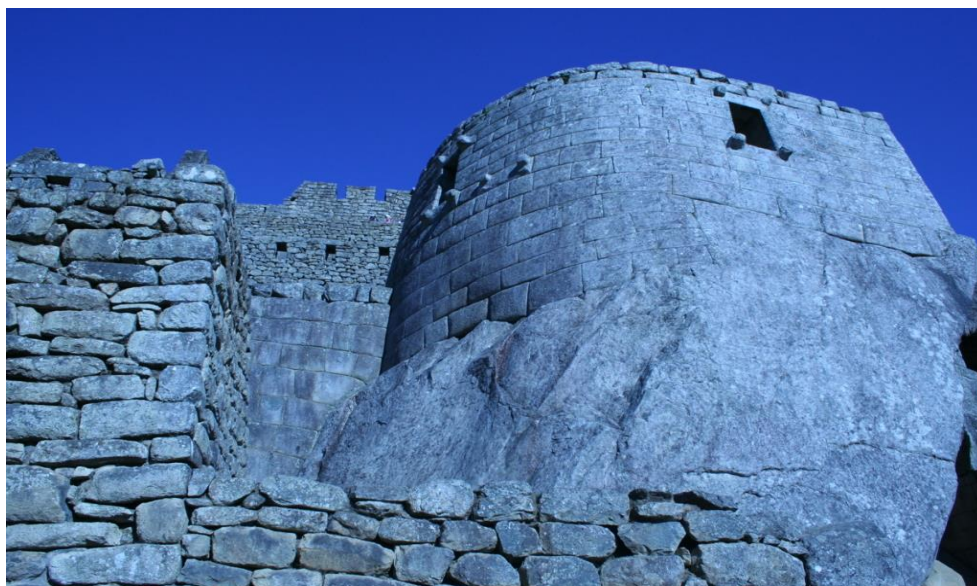
農作物の栽培に利用されたと考えられる段々畑を通過してマチュピチュ遺跡へ



マチュピチュ遺跡全景（正面がワイナピチュ山）



2階建てはこの1棟だけ



【マチュピチュ村の初代村長はなんと福島県大玉村出！】

1917年野内与吉は契約移民としてペルーに渡り、地元の国鉄に勤め、日本で

学んだノウハウを活かし、村の発展に貢献、事業にも成功したと云う。マチュピチュは温泉地としても有名であり、日本人観光客に人気スポットであるが日本の温泉とは違い野外の温泉プールに水着で入る様のも。それでも我々のように登山後の入浴は極楽気分であった。街の雰囲気は日本の温泉街似ていると云う、言われてみれば、そんな感じもしないでもなかったかな！ その温泉を最初に造ったのは野内与吉だったとのこと。2011年の震災の後大玉村はマチュピチュと友好都市を結び村のホームページのアクセスは1日2,000件を超える位の盛り上がりがあると云う。

キラコタン岬（釧路湿原）トレッキングと丹頂鶴観察

令和5年8月 夫婦旅

日本最大の湿原でその広さは後樂園の200倍（2万8000ヘクタール）、分布する動植物は2000種以上にのぼり、一度は絶滅の危機に瀕したタンチョウが再発見された場所としても知られている。特別天然記念物のタンチョウを観察できるスポットとしても有名。秘境と呼ばれるこの場所には、昭和55年にラムサール条約に登録され、規制ではなくオープンにして皆に理解され保護する事になった。それにより湿原の一部が解放されたのが最深部にある「キラコタン岬」である。古くから守られてきた大自然と絶景を堪能できる。知る人ぞ知るスポットのようです。釧路湿原国立公園の天然記念物区域に指定されているため、立ち入りには許可が必要な事から立ち入り許可を持つ専門ガイドに案内してもらった。

1日目8月8日 釧路川カヌー 下り3km 約2時間

朝1番羽田発で釧路空港には9:20に着き、小雨であったことから予約していたカヌーの会社に電話で様子を聞いたが通常通り営業中の事、雨の日のカヌーには不安もあったが流れは緩やかで船頭にお任せと言う事で乗ることにした。幾つかのコースはから1番オーソドックスな約2時間の釧路川下りを選んだ。船頭は20代後半の退位自衛隊で『船頭の中で私が1番力があるからお客さんは漕がなくても良いですよ』とのこと。小雨は降ったりやんだりであったが穏やかな流れは快適であった。川岸には蝦夷鹿が所々で見えた。つがいや小鹿にも会えた。船頭が近づいてくれるので真近かに見えたのが良かった。川岸からは離れて居たがタンチョウにも会えた。

ワシやサギも見えたが残念ながら木に止って動かないので面白くなかった。



小動物を見ながら又船頭が気を使っている色々な話をしてくれて退屈はしなかった。冬もやっているので積雪の風景もお奨めとの事でした。

宿は鶴居村観光協会から紹介された『ホテル TAITO (0154-64-3111)』その宿は明日の予定の『キラコタン岬トレッキング』のガイド付きであった。

2食付き 11, 500/人 ガイド料金 6, 500/人

2日目 8月9日 トレッキング 往復 4km 徒歩 2時間

昨夜はかなりの豪雨もあったが朝になり小ぶりになったことから予定通り 5時ガイドの車で出発。キャンセルがあり客は私ども 2人きりであった。

ガイドは60代のがっしり体格の山男風でカメラマンが本業との事。この地でタンチョウを撮っているようでプロの撮影隊のガイドもしているとも言っていた。キラコタン岬入口まで8人乗りマイクロで20分、トレッキング道は昨夜の豪雨で長靴がぎりぎりまで水がたまり縁の草むらを歩いた。

入り口付近は人工林も多くあったが奥へ進むと手つかずの原生林である。

大昔は海だったらしく、なんと縄文人やアイヌ人の痕跡との説明もあった。

高台からの風景は間近に広がる蛇行する雄大なチルワツナイ川と草原である。

このコースでは小動物との出会いはなかったが車での案内でトウモロコシ畑でタンチョウには出会えた。また蝦夷鹿は道路や畑ではちょこちょこ会えた。

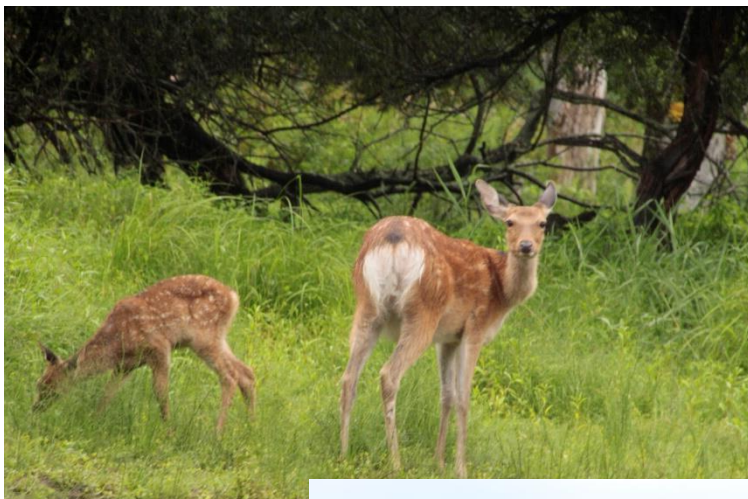
冬のタンチョウの観察橋なども案内してくれた。『ホテル TAITO』は雪のタンチョウ観察もやっているようで1月、2月はリピーターが多く予約が難しく比較的取りやすいのは正月前後との事。

白銀のタンチョウ撮影にチャレンジしたいと思ったが来れるか。

ガイドさんからホテルの隣の展示館があるので是非見てくれとの話で尋ねたら



小さいが素晴らしい建物でタンチョウの写真が展示してあった。販売もしているので5万円から35万円の小札が付いていた。タンチョウ写真家としてそれなりの人でしょう。“これぞ“まさに道楽！ 羨ましいね！”



ガイドさんの話1：

湿原の養分の含んだ地下水が川に流され海に出てプランクトンが出来、魚の集まる、こんな自然の循環が温暖化でトドやアザラシが増え、魚が食われてしまう問題が近年発生して居るとの事。

またガイドが目の中の『ナラの木林を指さし、この辺の一面は私が地主です。ある地主が売りに出し、ナラの木（家具材）が伐採されそうになり、（木が伐採されれば地下水脈が遮断され生態の循環が阻害される）役所に買い取るよう運動したが直ぐには買えないと言う事で私が仕方なしに買ったと言う、値段は高級車程度との事』“ええなんでカメラマンのガイドが” 思わず『あなた何者』と聞いてしまった。どうも昨夜泊まった『ホテル TAITO』3代目オーナーで地元の名家の様だった。

ガイドさんの話2：田中角栄の日本列島改造論で湿原の1部3000haを一大農場に改造する案がスタートしたが工事を始めたところ建設機械が沈んで使えないと事から中止に追い込まれた』そうだ。泥炭層が厚く実際にジャンプすると地盤が揺れた。中止の1つの要因だったようですが。

苗場山登山【永木さん 100 名山全頂制覇と私 80 歳、85 峰登頂記念】

令和 4 年 10 月 13 日登頂（登山者 5 人）

永木さんにとって苗場山(2145m)は 100 名山最後の記念の登山と山の会を 5 月で卒業、その記念の山行として、今回の赤湯温泉コースは永木さんのたつての願いと言う。彼は今迄 5 回キャンセルしたそうで、その為に山小屋にお土産持参の気の使いようでした。近年は手軽に登れる小赤沢コース、和田小屋コース（今回の復路）等がメジャーの様で、赤湯コースは川まで下り渡渉のある、また 100M 単位の山越えが 3 か所もある最難関コースです。私ロートルは同行を誘われて、光栄と戸惑いもあったが迷惑をかけるわけにはいかないので、それなりの訓練をし、不安の中にも自信をもって臨んだ。

1 日目 (10/12) 徒歩 4 時間 30 分 標高差 上り 250m 下り 150m

元橋 ～ (2:00) ～ 小日橋ゲート ～ (2:00) ～ 赤湯温泉山口館

本来小日橋ゲートまではタクシーが入るが今回は節約の為に歩く事に成った。

小日橋ゲートの先は荒れ放題の山道で山小屋の車は自己責任で入れるとの事でした。それから登山道に入り、いきなり急登が続き、しばらく進むと今度は急斜面を下る、そして登りが続く、最後は赤湯温泉のある川まで急斜面を下ることに成る。なんとアップダウンの激しい道のりであるか。赤湯温泉は川沿いの露天風呂で山小屋は新・旧 2 棟あり、案内されたのは 5 年前新築棟の立派な部屋であった。

旧建屋の食堂は吹き抜けでなかなか凝った造り。今はヘリコプターで資材を運搬して建てた様であるが、壁面に飾ってあった昔の建屋は上流で木を伐採して現地で加工・組み建てをしたとの事。記録にはないが古銭が温泉場から出て来たことから、江戸時代からあったのではと言う説もあるとの事。信仰の山ではないので主にマタギヤ材木の切り出し人夫が利用したのではとの事。常連客は少ないと言う。谷底までの急登はあまりに厳しい為か。その日の客は我々のみであった。経営者は夫婦 2 人でその日は奥さんの妹さん（50 代位）1 人きりだったので『1 人でここに泊まるのは大変でしょう』と聞いたから『慣れれば何とか成ります』と言っていました。それにしても女一人・・・いろんな事が無いにしろ、あるにしろ“厳しいね”テレビ無しでラジオのみの生活。



2 日目 (10/13) 徒歩 7 時間 標高差 上り 1200m、下り 150m

赤湯温泉山口館 ～ 2:30) ～ フクベ平 ～ (3:35) ～ 苗場山頂ヒュッテ食事を摂り 7 時出発、沢を登る事から始まった。昨日から苗場山頂上に登るまでなんと沢底の水の流れから 3ヶ所の山越えがあった。累計にすれば相当の高低差であった。

想定外のきびしい道のりであった。それでもガイド役として特別に参加した安田さんの絶妙な先導でコースタイムにさほど遅れることもなく山頂上ヒュッテに3時前に着いた。途中開かれた眺望もあったが曇り空が多く、なお紅葉はまだまだであった。



このコースで登る人は少なく出会ったのはたった2人でした。

3日目 (10/14) 徒歩 4時間 上り 130m 下り 760m

山頂ヒュッテ (1:10) ~ 神楽ヶ峰 ~ (2:00) ~ 和田小屋

朝食を摂り7時、雨具を着ての出発となった。登山道はやや大きめの石ころだらけで、その上を歩く事になる。濡れた石ころは滑るので一歩間違えばすってんころりん、どうしてもスローになる。一休みしている

時に登って来た青年に話しかけられた。『頂上は雨はやみそうですかね？撤退して明日登り直すか迷っているんですよ』。空は全面雨模様でどう見ても止みそうもない事から『引き返すのもありますね』と答えてしまった。(外れて後悔した)

青年はそこで引き返して私の後ろについて来て、話好きのようでいろいろ話かけてきた。20代の後半か、埼玉県在住、全国の山歩きをしている様で特に新潟の山が好きで良く行くとの事。金がないので今回も埼玉から普通電車に乗り無人駅舎の外にテントを張り、そして和田小屋まで組み立て自転車 came と言う。

私も20代の頃、なけなしのお金をはたいて山歩きをした事を思い出し、今だったらこんな手もあるかと羨ましかった。当時とはエンゲル係数及びテント・自転車・食料の性能、重さ等何もかも全く違いますね。

天候が急変して雨になった事もあり、登山客はそれなりに居たが老人はほとんど見かけなかった。老人が少なく感じたのは今回ばかりではなく、コロナ禍現象ではないかと思っているが、3日間予報は晴れであったが最初2日間は曇りで最後の日は雨、紅葉も不思議と和田小屋付近が一番色付きが良く、山頂は早すぎたようでした。

和田小屋から予約したタクシーで無事下山した。越後湯沢駅に着いた時には雨が止み快晴に変わっていた。引き返した青年には余計なことを言ってしまったと後悔した。

越後湯沢駅前のそば処『中野屋』での舞茸の天ぷらと蕎麦と生ビールが美味しかった。の蕎麦屋のようでした。

【湯沢の2大銘酒『鶴齢』と『上善如水』の話】

赤湯温泉の夕食時に地元湯沢の銘酒と言って『鶴齢』が出されたが、『甘口でもなく、辛口でもなく、すっきりした味わい』で山形の銘酒『十四代』に似て美味しかった。

- もう1つの銘酒『上善如水』はバブルの頃酒通の間では『スーパー銘酒菊姫』で働いていた『スーパー杜氏』が作った酒と聞きました。今では全国ブランドで何処の酒店でも普通の値段で良く見かけますが。銘酒『菊姫』の話：バブルの頃『越乃寒梅』が人気銘柄であったが、酒通の間では菊1番の人気の、2万円の1升瓶の大吟醸がプレミアつきで4倍になったとも聞きました。

中野の普通の居酒屋で1合8千円（おちょこ4杯）には驚かされました。

- ・越後湯沢駅お土産売り場で『銘酒鶴齢』の吟醸酒を買う心算で手に取り、レジで『大吟醸酒はないのですかと聞いたら、『ぶーっと奥に酒専門店がありますから聞いて見て下さい』との事。人の好い店員さんにびっくり！言われるままに奥の酒店で大吟醸酒を買った。先ほどの店に通りにかかったので『大吟醸酒買いました』と言ったら『良かったですね』と言われそのまま帰るわけにも行かず『2合入りの酒とつまみを買った。『そんなに人が良くて商売にならんでしょう』と店員さんに声掛けたら、『大丈夫です』と笑っていた。その酒で新幹線で永木さんと3度目の乾杯をした。

苗場山 山頂にて



【永木さんの話】 16歳から山登りを初めて4年間大学の山岳部に所属、当山の会では本各的な訓練を受けた数少ない一人です。卒業して教員になり、退職までは多忙につき山を断ち、定年後即東葛山の会に入会したと言う。

学生時代から百名山を目指したわけではないでしょうが、結果としてある程度登っていたようで、会に入ってから15年で今回達成したことになります。この会には100名山制覇組は多く居ますが凄い事だと思います。『永木さん改めておめでとうございます』

【余談：私事です】 今回の山旅は、私は下山した次の日10月15日80歳になり、おかげで記念の山行（85峰制覇）と成りました。

- ・かみさんから貰った『80歳の壁』を読み、『80歳になればストレスが何より悪い、好きなように生きるのが1番』と書いてあり、しめたとばかり『飲み放題、食い放題』を続けたら体重が増え、おまけに血糖値まで上がり、神さん益々うるさくなりました。
- ・誕生祝いでワコールの登山用タイツを貰ったのでますます頑張ろうと思った。
- ・息子夫婦に新鎌ヶ谷駅前の寿司屋でお祝いをしてもらったので、息子に『有難う、お前も80歳になったら盛大に祝ってあげるから』と言うと息子は“分かった”と普通に答えたので・・・“おい！お前本当に祝ってもらえると思っているのか。

新穂高温泉～双六小屋～黒部源流～雲ノ平 往復縦走

【コロナ禍+異常気象で人気コースの登山事情は変わりました】

令和3年(2021) 単独登山(4泊5日)

前夜台風8号が発生、関東、甲信越に上陸の予報が出たことで同行予定の友人から家族の反対があるとの事、強行を強いるわけにも行かず結果として中止としました。一昨年も天候により延期、延期で、結果今年に繰越しになってしまった。今年はコロナ禍で山小屋の収容は定員の1/2(夏山の実態の1/3)、人気のコースの山小屋、今回中止にすれば今年の夏の再予約は無理である。

雲ノ平のそもそもの所以は10年ぐらい前に『東葛山の会で双六小屋集中登山』で8月の末に登った時、あまりの絶景に感動したが残念ながら高山植物はすべて枯れた草原。その時以来お花畑の良い時期に登るのが私の長年の夢となった。

“さあどうする、来年に延期か” JR切符購入済み、山小屋の予約済み、来年は異常気象無くなるか、コロナ禍が収まり山小屋の人数制限が無くなるか、私の健脚は？

どう考えても難しそう。それも5日間の長丁場では。

今迄の悪天候で強行した山行を思い出しました。

1つは5～6年前の会山行で『蔵王の冬山登山』である。

もともと蔵王は日本海からの強風がぶつかり、頂上付近が晴れることは少なく登山には難しいと聞いていましたが、出発前日、蔵王付近は大荒れで吹雪が予想され、登山は無理だろうとの情報。2年続けての悪天候で中止、今回は3回目のリベンジ、登山ガイド付き旅館に迷惑をかけた経緯もあり、参加予定者で話し合い、3人は予定通り登山(天候によりスキーに変更)、他の3人はスキーに変更しての決行。夜行バスで着いた蔵王は予報が外れ快晴だった。旅館の人によると昨日まではずーっと悪天候が続いていたとの事。“女心と夏の空”

・・・結果オーライで憧れの樹氷、苧田岳山頂の絶景を堪能出来た・・・

もう1つは入会して直ぐ(約10年前)悪沢岳・赤石岳(南アルプス)の縦走、単独登山4泊5日 台風予報にはおおらかな時代、さほど気にせず出発した。

3日間は快晴に恵まれ4日目の赤石岳あたりから天候が怪しくなり荒川小屋に昼頃着いたが、明日は台風直撃で下山は無理であろうとの事。泊まらずに樺島ロッジに下山。その日の行程は登り700m、下り2000m、10時間以上の怒涛の強行軍となった。次の日、予報通りの暴風雨は半端ではなく山小屋に泊まれば2日滞在を強いられたはず。

・・・結果オーライで目的達成・・・

“とりあえず現地で様子を見よう”・・・“女心と夏の空? に期待”・・・

無理であれば松本観光でも良いと言う事で予定通り出発を決め、単独登山を妻に話したところ、意外にも大げさな反対はなかった。夫婦登山が多かったので信用しているか、それとも無感なのか・・・。

1日目(24日・土) 徒歩1:20 標高差登り 312m

あずさ号で松本、そしてバスにて新穂高温泉へ、『わさび平小屋泊』台風予報は関東、甲信越も圏内であるが明日、明後日は晴れ模様は変わらず、とりあえず双六小屋までは問題なさそうである。

2日目(25日・日) 徒歩7:00 標高差 登り1200m

朝飯を弁当に変え5時出発、南斜面1200mの急登、熱中症を心配したが台風でも晴ているが

日差しは厳しくない。鏡平山荘に9時に着き休憩・朝食を取った。残念ながら有名な鏡池の槍・穂高岳の映り絵はなかった。

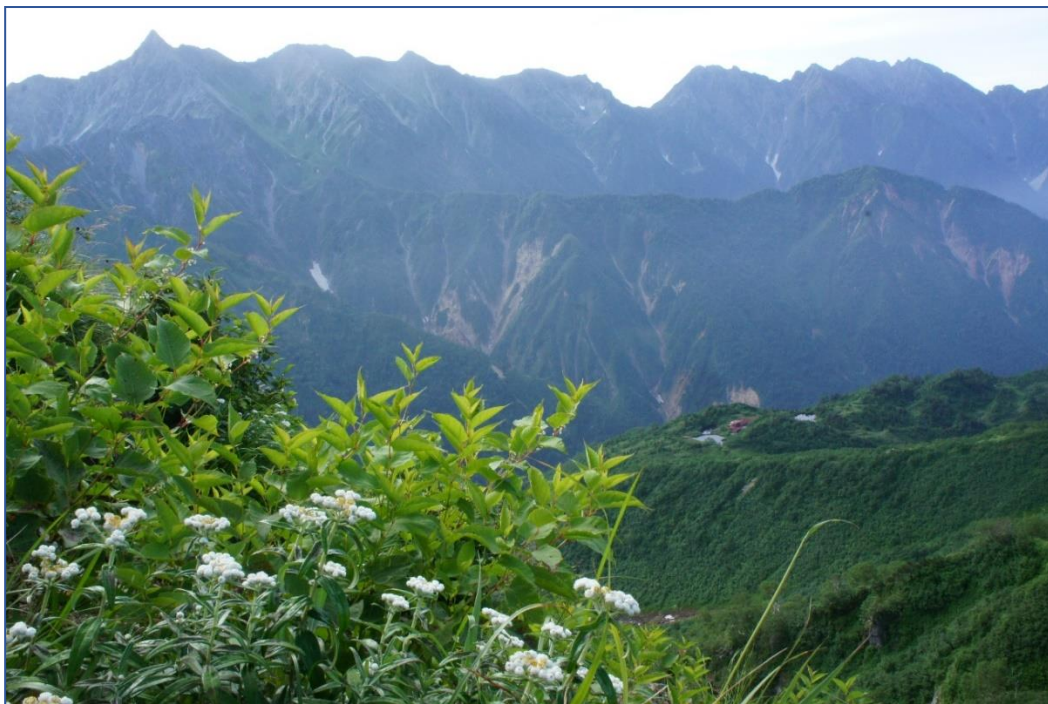
9時半出発、花見平の高山植物はまさに見頃であった。山小屋で一緒だった女性（1人）が道連れになった。逗子の人、年のころ・・・いい感じの人。1時間半くらいご一緒したが、今夜の宿は双六小屋が予約できなかったので三俣山荘泊との事、花見平のお花が素晴らしく私は写真を撮る都合もあったので残念ながら先に行ってもらった。

ゆっくりペースで13時双六小屋到着。 “とりあえずビールで乾杯”

台風予報はスマホが繋がらない、山小屋の人の情報によると、明日までは晴れるがその後は台風直撃で荒れる予報、途中渡渉（川の増水）2か所あり、増水量によっては通行止めになるので明日下山が無難でしょうとの事。

ここまでこれだけでも儲けものと下山を決め、自宅に連絡し、雲ノ平山荘のキャンセルを依頼した。（小屋の衛星電話代が高い為30秒300円）

夜8時ごろTVニュースの台風予報で東北にずれそうとの報道。そうであれば進むか、戻るか、さあどうする” 思案のしどころ。



（左端）・槍・穂高岳・鏡平山荘（やや右手前）の遠望（弓折岳山頂にて）

【雲ノ平へ行くとなればその問題点】

- ・明日はなんとか天気はもちそう、であれば雲ノ平までは問題ない。復路は途中の三俣山荘を利用すればある程度の雨・風であれば大丈夫そう。
- ・体調は良好であるが荷物を極力減らし小屋に預ける（ピストン登山のメリット）、炎天下（熱中症）もなさそう。危険な場所は少ないが滑落・転倒に注意。
- ・異常気象・山小屋の予約制から来年の再来も難しい。台風一過で素晴らしい風景の撮影が期待出来るかも。

“思案の結果、雲ノ平へ向かう事に決める”（単独行だから決められた？）

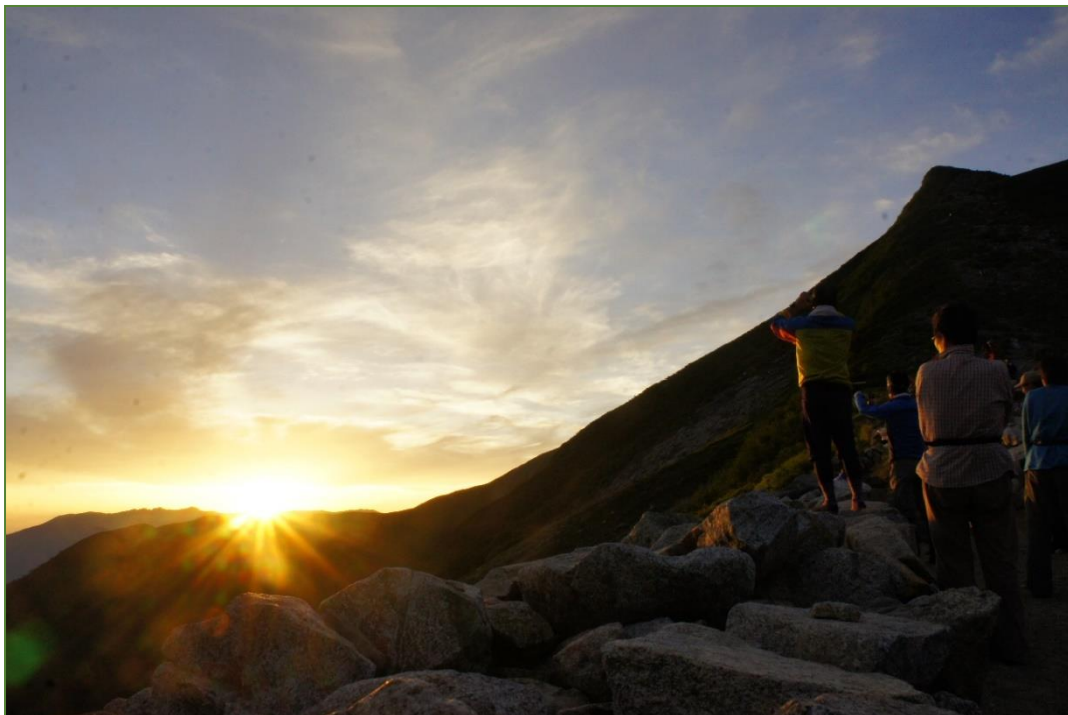
3日目（26日・月） 徒歩6:30（散策2:00） 登り900m・下り8000m

朝飯を弁当に変え、5時快晴の中出発。途中、水晶岳、鷲羽岳等の眺望、お花畑の



コバイケイソウのお花畑

高山植物の賑わい、期待通りの風景である。まさに槍、穂高岳にも負けずとも劣らないゴールデンコースある。三俣蓮華岳を登り三俣山荘に9時到着、朝食・トイレタイムとした。9時半、雲ノ平に向かう。黒部源流碑通り、大きめの石ころだらけの急斜面を登り残雪のあるスイス庭園に到着。まさに天空の草原(2536m)である。笠ヶ岳、黒部五郎岳の眺望、コバイケイソウのお花畑、期待通りの素晴らしい風景であった。



鷲羽岳からの日の出(双六小屋にて)



薬師岳の遠望と雲ノ平のスイス庭園

雲ノ平山荘に 12 時半に着いた。“何はともあれビールで乾杯”
 早速明日の台風情報、テレビには大町 10 時の台風予報が映っており、甲信越は台風圏内である。「もう少し詳しい情報は？」と管理人に尋ねたが「テレビに映っているだけで、それ以上の事はここではわからない」との事。双六とは違ってサービス心無しである。この小屋で 1~2 日足止めにあったらえらい事になると思った。
 これ以上の台風情報をあきらめ、明日出発時、暴風雨であればある程度収まるまで待つか、滞在するか、小雨であれば三俣山荘までは 3~4 時間、濡れても低体温にはならないので出発と決め、床に就いたが寝つきが悪かった。

エピソード 1：山小屋の手前を通りかかった 30 代の男性の話

スイス庭園で挨拶をして追い越して行った青年が小屋から戻ってくるので『今から何処までですか』と聞くと、『今朝一番で新穂温泉を出て来たので今から新穂高温泉まで戻ります』と云う。わたしと同じコース 5 日間を 1 日で往復することになる。トレイルランニングである。聞くと荷物は腰に巻いた小さなポシェットに水と雨具が入っているとの事。ただ驚き何も言えなかった。

エピソード 2：山小屋のコロナ対策

双六小屋では夜具のコロナ対策として掛け布団の襟カバーと枕カバー、洗面所には紙コップがあったが、雲ノ平ではすべて自前で持参、紙コップもない。
 寝床は 2 人分のスペースで、ビニールカーテンとテーブル（食堂）の低い衝立てはどちらにもあった。雲ノ平は 1 週間前からキャンセル料発生。

4日目 (27日・火) 徒歩6:30 登り800m・下り900m

昨夜は雨・風が強く、何度か目を覚ましたが朝は曇り空で雨・風は収まっていた、遅れて6時に朝食で出発。石ころの急斜面を転倒しないように注意し下る。9時半に三俣山荘に着いて朝食をとった。玄関の手書きの予報は朝方曇り、昼から雨に変わるとの事。

10時に小屋を出発。途中から雨が降り出し12時半、双六小屋に着いた。

雨も本降りではないし、体力も鏡平山荘までは持つだろうからこのまま下山するか迷い、天気予報を尋ねると明日は『曇り、小雨』との事。これから小雨の中鏡平山荘まで(2時間)下山するより、明日の天気(眺望)を期待して双六小屋に泊まることにした。

エピソード3: 山小屋の野外テーブルで乾杯した70歳の男性の話(厚木)。

立山から入り薬師岳、黒部五郎岳等100名山8峰を制覇。全てテント10泊。訓練は大山で25kgを背負って登山20回、連日もあり、日を重ねると同じ目的で登っている人が徐々に増え、最終では5~6人になり仲間として一緒に登っているとの事。

(大山標高差900m、筑波山薬王院コース池から山頂まで800m)

もう1つの『目から鱗の話』: 荷物を軽減するため着替えなしで消臭剤を持参したとの事。臭いがきつく困ったとも言っていた。

私のミニ訓練はコロナ禍ではジム通い、ウォーキングを日課としていたが久しぶりに筑波山に登ったら脚のつりがひどく、どうも使う筋肉が違うらしく訓練法を変えた。登山を主に考え、筑波山と宝篋山等繰り返し登ることにした。ラストスパートでは連日、1日おき、もあった。その他近くの公園の10mの階段、荷物を背負っての訓練、これ等が続けたことでこむら返りは解消できた、本番でもその気配は全くなかった。

*初日の荷物の重さに気付き、極力軽くするため『水とカップとダウンジャケット』以外の酒とつまみ、非常食はわさび小屋に預け、帰りの着替えは双六に預けた。ピストン縦走のメリットであった。

*5時出発朝食を弁当に変え、8時ごろ途中の山小屋で休憩しながら取った。昼までに宿泊予定の山小屋に到着することで熱中症対策とした。昼飯は小屋で“ビールで乾杯”気持的にも楽になり、我ながら成功でした。

5日目: 28・水) 徒歩6:30 下り 1500m

朝飯を弁当に変え、5時、曇りやや晴れの中出発。

弓折乗り越えからの景色は雲海の中に槍・穂高岳が浮かんでいるようだ。ただ槍のてっぺんは朝霧が吹き上げ時々顔は出すが写真には収まらなかった。その眺望は息をのむような素晴らしさで、まさに『台風一過』のようで期待通りである。8時半に鏡平に着き朝食をとった。曇りから小雨交じりに変わっていた。

9時、鏡平を出発、わさび平小屋に着くころはだんだん雨足が強くなって小屋を出るともなく暴風雨に変わり、全てはびしょ濡れ、でも何とか時間内に着き、温泉で入浴出来た。帰りは変えズボンがなくカップズボンで代替とした。

・・・危うい山旅結果オーライ目的達成、ザ・エンド・・・



霧の槍ヶ岳（やや左側）と雲海（弓折岳山頂にて）

【コロナ禍の中の山旅で感じたこと】

今迄はどんなに人気の山でも、『気力・体力・お金』と『ぎゅうぎゅう詰めの山小屋』さえ覚悟すれば誰でも何時でも登れたが、これからは『異常気象（梅雨と台風）+山小屋予約制』で相当難しくなる。長丁場であれば、なおさらの事。

若い人はテント持参が多くなるが高齢者はどうか。

今回の登山者は若い人の単独行が多く、意外にも若い女性が目立った。年寄り、団体は極端に少なかった。これもみなコロナ禍の影響と思えた。

すなわちワクチン未接種が多いことになるので感染には大いに注意が必要でしょう。歩行時はマスクなし、万が一感染した時『山で感染しましたとは言にくい』故に単独行が多いのか。ワクチン接種済みの年寄りはやはり遠慮して自粛を続けているのか。

一方経済を廻すため金持ちの年寄りは大いに消費して欲しい世論もありますが、年寄りの単独行は家族や会や周りの心配もあり決して褒めたものではないが、**安全なコース選びとゆったり行程を考慮**すればそれもありか思います。

単独行でもすれ違い、追い越しで挨拶、時には道連れで長話をするのがあり、寂しさはあまり感じないが心細さはありますかね。

近頃はスマホのGPSで道迷いの心配はなくなりましたが、それでも**滑落・転倒と異常気象、熱中症**は怖いですね。マイペースを守ればバテる事はそうは簡単には無いとは思いますが。今回はコロナ禍で出来なかったですが、山小屋では登山者がそれぞれが何となく集まり車座で飲み会、そして『山自慢』に花咲く、これも楽しみ1つでしたが。

御嶽山（3063m）大噴火後半世紀ぶり“思い切ってノスタルジー”

令和3年（2021）単独登山

1日目（9/24・金） 徒歩3:00 登り標高差670m

船橋6:53 あずさ3号 ～ 10:13 塩尻（レンタカー2:00）～ 12:30 ロープウェイ駅～ロープ

ウェイ頂上駅（飯森高原）コース：頂上駅（2150m）13:00（黒沢口コース）～ 女人堂（2480m）～

16:00 石室山荘（2820m）泊

2日目（9/25・土） 徒歩6:00 登り247m 下り917m

石室堂7:00～8:00 剣が峰～9:00 三ノ池乗越～14:00 頂上駅～ “妻籠宿観光
妻籠宿観光 ホステル結い庵泊

3日目（9/26・日）大雨（7年の前の噴火の日）奈良井宿観光

1日目・・・快晴：あずさ号はガラ空きで終点まで隣席は空いていたのでゆったり気分が良かったが、塩尻は松本の先と思い込んで乗り過ぎの大失態。運よく折り返しの便が30分後にあったので助かったが、駅で待ち合わせをしていたレンタカー屋さんにはひらあやまりとなった。それからロープウェイ駅まで曲りくねった急登の山道を2時間走り、結構な道のりでした。

ロープウェイに乗り黒沢登山口出発は13時半となった。残念ながら今年の紅葉は遅い様でせいぜいダケカンバが色付き始めた程度であった。（期待した写真はだめでした）女人堂（8合目）を過ぎると噴火の名残か溶岩だらけの登山道、そして慰霊碑、石像等がやけに目立った。噴火の犠牲の大きさを物語っているのか。今日の宿、石室堂山荘着（9合目）16時、何ところも噴火記念日前日と言うのにガラ空き、これもコロナ禍の影響か！ 夕食に着いたのは5人であった。同室の青年（20代半ば）とはいろいろ話したがその中で印象に残ったのは、コロナ禍で『同世代の仲間で結婚した人は1人も居ませんし、出会いのチャンスが全くありません。マスク美人でも困りますしね』と嘆いていた。



2日目・・・朝食をとり7時出発、大きな岩石の急登ではあったがゆったりペースで剣が峰（頂上）まで1時間余り。頂上の立派な社（やしろ）は完成していたがシェルター等工事現場が何か所か目に付いた。他のコースへの進入禁止等つめ跡まだまだ残っている。頂上を折り返し二ノ池に下り、三ノ池乗越で三ノ池の眺望を楽しみ、そこで折り返し、ロープウェイ駅に14時に下山した。この日は噴火から7年、記念日前日の土曜日であり、日帰り登山客はそれなりの賑わいであった。妻籠宿には山道を2時間走り5時着、街道の観光客の人混みを想像していたがなんと全ての店はしまり、人もポツリ、ポツリ程度、聞くところによるとコロナ禍の影響か5時で街道は店じまいとの事。

石室山荘からのご来光



水のない一ノ池（左）二ノ池の風景（剣が峰山頂より）



三ノ池の風景



半世紀ぶりのノスタルジック

20代中頃第一次登山ブーム後半（ダークダックスの山男の唄が流行っていた）

当時は女性登山者は少なく、高齢者もいない、若い男性がほとんどでした。そんな時代私も20代前半、初めての本格的な登山のデビュー3,000級の山、単独行、山小屋泊、すべて初経験でそれまでは近場の日帰りハイキング程度でした。当時はロープウエイはなかったのが麓から標高差1,500mはハードな登山、ちょっとした冒険でもあったはず。何故御岳山であったかは定かではないし、登山の様相もさほど覚えていないが白装束の修行僧が多かった記憶（今回は1組3人に会った）がある。頂上の小屋に泊まり、居合わせた他の登山者と車座で酒を持ち寄り飲み会が楽しかった事は覚えている。

“妻籠宿には甘く切ないノスタルジックな思い出？”

今回の宿の紹介（変わった宿として＝近年は珍しくはないようですが）

『ホステル結い庵』妻籠宿観光の宿として南木曾駅から車で20分、送迎あり、旧中山道山奥で周りにも民家は少ない。築100年で養蚕の古民家。（100坪）素泊まり約1万円、別料金で朝食（パン、コーヒー程度500円）、夕食（スパゲッティ、カレーライス程度）、その他コンドミニマムの様に食材持ち込みで自分で料理。若夫婦2人、他に近くに2か所経営。コロナ禍で経営は大変との事。風呂を見晴しの良い場所に増設を考えているようであるが現在は家庭用のヒノキ風呂。この宿はコンドミニマムは長期滞在向き。一泊泊まりは創作料理が良いね。私は宿から聞いて近くのコンビニでビールとつまみを持込んだ。味気ないね！

“さーどうでしょうか客は古民家インテリアも良いでしょうか満足度は”

ホステル結い庵



仙人池（裏剣標高 2100m）・下の廊下紅葉登山 【黒部ダム、立山室堂紅葉、仙人池、下の廊下、トロッコ紅葉狩り】

平成 29 年（2017）9 月 28 日～10 月 1 日（3 泊 4 日） 登山者：4 人

紅葉の仙人池は写真好きのメッカで雄大な自然の中の直径 20m 程度の小さな池。その水面いっばいに紅葉に染まった壮大な剣岳・立山連峰がくっきりとはまって映し込まれた絶景。何故こんなにも融合された、何とも不思議な世界があるのか。

“まさに絶景、錦秋の世界”

- ・悲しい事故に遭遇：岩壁の滑落事故死（2 番目の遺体発見者になった）
- ・下の廊下“落ちれば確実に死ぬ”断崖絶壁 1000m？の黒部峡谷の絶景

1 日目 9/28（木）：（徒歩 3：00 登り 516m 下り 410m 5.0Km）

船橋発あずさ 3 号で扇沢着 12：30、アルペンルートに入るが生憎の朝から小雨、車内では『今紅葉の見頃』のアナウンスはあるが鹿島槍・五竜岳は幻、”残念無念。

“これでは 5,800 円の乗車料は高い“

室生堂平は 6 年前の剣岳登山以来で小雨の中、2 時出発結構なアップ・ダウンで老体には結構きつい、なおさらこの雨の中、当初は次の日を考え 40 分先の剣沢小屋を予定したが剣御前小舎に変更でほっとした。小屋着が 6 時頃かと覚悟し、ひたすら歩く、歩く、体も冷え（低体温が心配）後 1 時間位はかかるだろう思っていると目の前に茶色の屋根らしい物が見えて来た。“これ山小屋！ちょっと早いのでは” 特別早い歩行速度とは思えなかったが皆もびっくり、5 時ちょっと前に剣御前小舎に到着、胸をなでおろした。

2 日目 9/29（金）（徒歩 7：00 登り 548m 下り 1225m 7.6K ）

剣岳の映り込みの絶景



今日はいよいよ真砂沢 600mの大雪溪コース、7時小屋出発40分歩いて剣沢小屋で雪溪の説明を聞くことにした。宿泊者以外は説明をしてくれないとの情報があったので剣御前小舎、室堂警備隊から紹介されたと言うと手書きの地図で詳しい説明をしてくれた、いよいよ大雪溪へのチャレンジ。雪溪の中は道が出来ており、雪質は安定しており、汚れて黒ずんで滑らない状態で有った。武蔵谷出合と次郎丸の出合を難なく通過。6年前連れ合いと仙人池を目指した時は剣御前小舎で『6本アイゼンでは厳しい』と言われ急遽劔岳登山に変更した経緯が有ったことから皆にもオーバーに風潮したようであり、あまりに簡単なルートに皆もひょうし抜け。二股から300mの急登を経て標高2100mの仙人池ヒュッテ15:30到着紅葉は70・80%程度、まあまあである。ザックをおろし、早速小屋の側の仙人池に、時間的に日は欠け、どんよりしていたが池には夕焼けの中、紅葉に囲まれて劔岳・立山連峰がくっきりと映っていた。予想を裏切らない素晴らしい風景。“我大いに満足” 話に聞いた写真ブーム時代は池の周りにカメラが並び場所取りが難しかったと聞かされていたが今回は登山、写真ブームが去り三脚カメラはチラホラ程度でした。

***知る人ぞ知る仙人池のもう1つ、名物お婆さんは5年位前迄はへりで往復して健在の様でしたが今は完全にリタイヤしてお孫さん(?)がやっているようであった。**

3日目 9/30 (土) (徒歩 7:00 下り 1240m 4.0K)

小さな池の紅葉の絶景 (奥：立山連峰、手前：劔岳)





出発前にメンバー揃って

昨夕と違い劔岳が輝いて池に映る、雲の彩も加わり、風が全く無かったので映り絵が絶好の撮影日であった。(ついでに！！)

9時出発、昨晚食事に隣り合わせた40代の好青年が同行する事になった。富山に住んでいて近郊の山を1人で歩くのが趣味、現在雷鳥の同好会に所属、雷鳥は立山連峰に多くが生息し、現在2,000羽程度で立山連峰に多いとの事。私が『北岳山頂で富士山をバックに雷鳥を撮った』と話したら『それはすごい、なかなか撮れない写真ですよ』と言われ、うれしくなった。(彼は宇奈月温泉まで一緒だった)

仙人池ヒュッテには風呂があり、女性軍は入ったが私は途中の仙人温泉に入る予定で居たが残念ながら大分前から閉鎖されていた。

***300m位下って黒部川支流の絶壁になっている崖淵を歩いていると50m下の川原の水辺に人が仰向きに倒れている、その手前の小枝に帽子が引っ掛かっていることから滑落事故とすぐに気付いた。亡くなっているのか、しばらくするとすぐ前の10人ほどのパーティの2人が倒れている人を水から引き揚げた。登山道は1つの靴跡ぐらいしか平な面が無く、手すりも無く、極めて危ない場所であった。**

阿曾原温泉小屋4時到着、愛嬌の良いオーナーおばさんが『お客さんが1番の申込みで有ったが最後の到着者よ』と言われ、風呂を急ぐよう薦められた。

露天風呂は20m下った10分以上はかかった。男女時間分けて使用。疲れた体には快適な風呂であった。

***風呂で偶然にも滑落現場で先を歩いていたパーティのガイドに会った。話によると滑落者は富山の方で53歳の男性、単独登山者との事。彼は地元のツアガイドで第2発見者であ**

ったが関係役所への連絡等全てを対応したようである。『この登山道はあまりに危ない事から県に申し入れるとの事』

4日目 10/1 (日) (徒歩 6:00 登り 100m 下り 310m 8.0K)

今日は楽な登山か思いきや、いきなりの急登、1時間は続いたか。それから下る事2時間ようやく仙人ダムに到着。

今も工事中のところがあるらしく、トロッコ電車が走っていた。(乗りたかった)

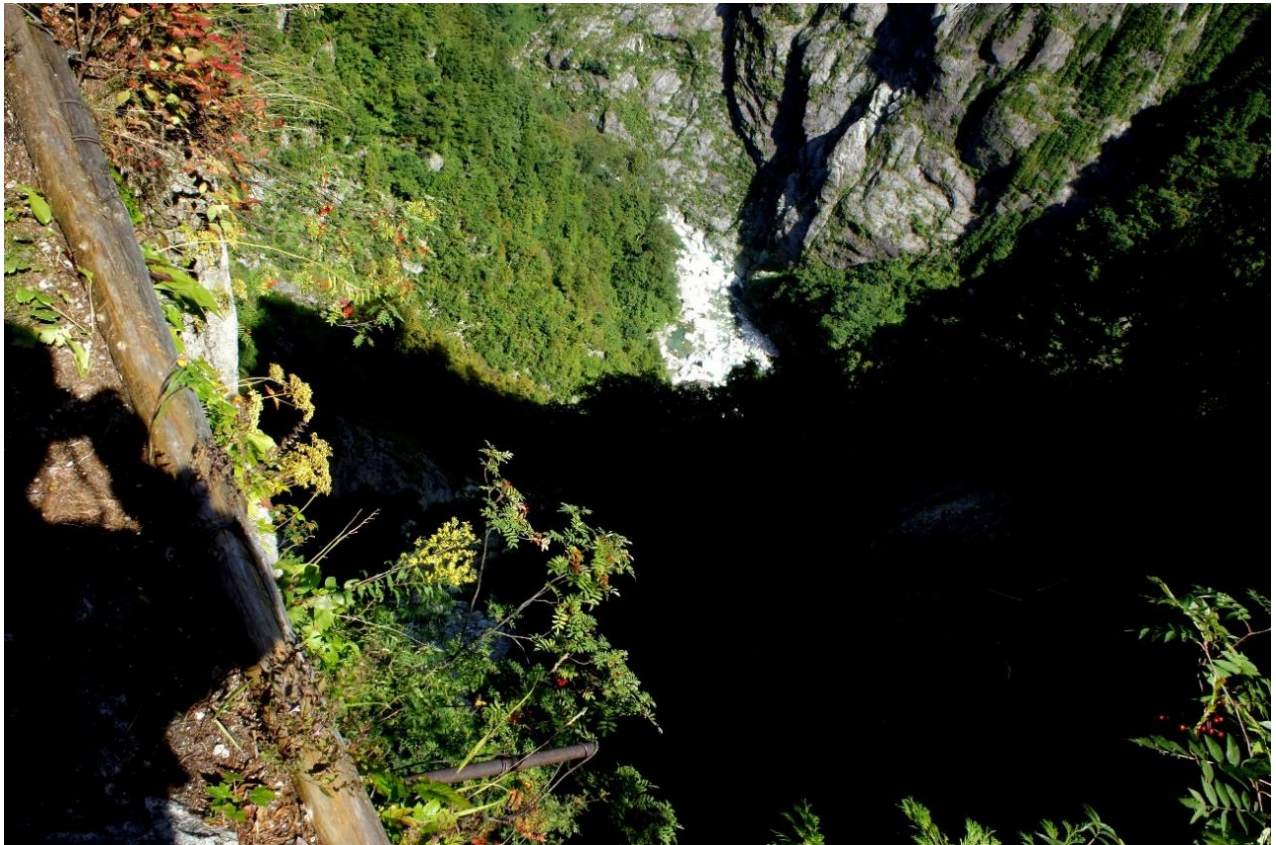
下の廊下を2時間程歩く、黒部ダム工事の測量等の歩道で幅は最狭部 50cm程度から 1m位あり、手すりもしっかり整備され、それなりに歩きやすい。昨日の滑落現場ではないが『落ちたら間違いなく死ぬ』。何ととっても 1,000mもある様な直角の断崖絶壁(実際には 4・500m位か=黒四ダム落差約 200m)、長く歩いていると昨日の事故を思い出し、じわじわと恐怖感と言うか背筋が寒くなる思い。“まさに七つの底の地獄か”

景観それなりに“すごさ”は有ったが紅葉はまだまだであった。

*幅 50センチ程度の登山道は日電歩道(旧関西電力系列)呼ばれ、黒四ダム建設認可の条件として登山道として開放の義務を課せられ、毎年数千万円と延 500 人の人員を投じて維持補修工事を行っているとの事。

*トロッコ電車は2度目であったが紅葉には早すぎて、その景観は今一、坐って居れば風景が流れてくる “楽ちんを実感”

下の廊下の絶壁 (左手前：登山道で写真を撮っている影、右：谷底)



雪山蔵王（熊野岳）登頂、お釜・樹氷鑑賞

平成 29 年（2017）3 月 1 日～3 日（夜行+1 泊 2 日）登山者 3 人会山行として 3 度目のリベンジ最初は 4 年前、前日の予報『大雪の為夜行バスが運休か』その為に中止。2 度目はその 2 年後『例の噴火騒動』で中止、上高地に変更となった。今回も 3 日前の予報が降水率 80%と 90%、2 日目の風速 25m と最悪の予報、これじゃスキーもままならず『温泉のみか！』と言う意見が出て、すったもんだ 2 転 3 転の結果、延期を提案するが日程が合わず、やむなく中止とした人。スキー愛好者 3 人は 1 日位は滑れそうだと言う事で夜行バスから翌日の新幹線に変えての催行となった。次の日、すなわち前日低気圧の北上が遅れ予報がやや好転 1 日目降水率 50%、風速 5m、2 日目は悪かったがスキー組の影響も有、『所詮、山の天気は行って見なければわからんだろう』と言うことで個人山行として決行するとなった。当日第 1 例会を早めに退席し、上野駅から山形行の夜行バスに乗ったが乗客は半分もいなかった。

翌日予定通り夜行で 5 時 50 分山形着。蔵王温泉伊藤屋旅館に着いたのが朝 7 時お客はやけに少なく 4・5 人程度に思えた。これも悪天候予報の為か。それにしても『蔵王の空は大きく予報が外れ青空・無風状態』今日のガイドでもある宿の主人曰く『昨日夕方から天候が良くなり今期最高の登山日和です、皆さん心掛けが良いのですね』とのこと。

8 時半始発のロープウェイに乗車、ルンルン気分朝日岳、鳥海山等の遠望、そして真下に見るモンスター（樹氷）の群生を楽しみながら地蔵岳山頂登山口駅へと。9 時登山口駅出発



蔵王山頂

地蔵岳頂上へ。斜面が緩やかなせいもありスキー客もちらほら、天気予報のせいか人は極端に少ない、この好天の中もったいない。それにしても我々はついているな！『あまりに美しい白の景観に感動』

頂上で記念写真、緩やかな斜面上に広がった尾根上の熊野岳山頂へ向かう。

道標の2m程のポールには霧氷が付（えびのしっぽ）、厳冬の厳しさを物語っていた。やや下ったところの裾野の窪地は風の道と言われ、他とは違いかなりの強風を感じられた。



熊野岳頂上

熊野岳への斜面はトレースも無く、新雪の上に風の文様がくっきり映りだされ、熊野神社の祠、鳥居は雪に埋もれ山状になっていた。頂上で360度の絶景を堪能。それから20分ほど下り、お釜景勝地にたどり着くが凍っていて、ガスが有り輪郭が見える程度であった。ガイドの宿に主人曰く『これだけ見れば良い方ですよ』との事。帰路は11時出発、熊野岳の巻き



で道標ポールに添って歩き地蔵岳へ戻る。

登山者は少なく、その内の若い男女のペア地蔵岳の方から観光スタイル（ブーツとスニーカー、ショルダーバック等）で迷い込んできたのには驚かせられた。

『あまりにすばらしい風景なのであの丘（熊野岳）まで行って見よう』と悪びれた様子も無く言っていたがガイドに説教され引き返かしました。

その他の登山者は若い男女のペアと中年の単独者のみでした。

それからロープウェイには乗らず樹氷林を散策をし、トニーザイラー顕彰碑の休憩小屋13時着、昼食をとった。

伊藤屋旅館は2食つき8000円とリーズナブルであったが食事等での推薦は難しいが館主の趣味の写真集『蔵王の風景』ビデオプロジェクターの映像は素晴らしかった。又厳冬のガイドは館主（蔵王山岳インストラクター 免許番号NO1）以外に見つからなかった。

2日目は朝から曇り空、地藏岳終点駅付近は吹雪いたようで低山部の中でのスキーとなった。

* モンスター（樹氷）が衰退している話

樹氷の大きい裾野近く（1,200m付近）ではライトアップで本体の青森トドマツに蛾が大量に発生して、立ち枯れ状態が進み又温暖化も加わりモンスターが大きくなれないとの事。その状況は年々かなり加速し、何年か後には観光の目玉にはならないのではと危機感を持っているとの事。

* 蔵王温泉とトニーザイラーの話

第一次登山ブームはどちらかと言うと男だけで地味であったがその後、若い女性も加わったスキーブームが洪水のように押し寄せてきた。その火付け役がアルペン三冠王のトニーザイラー、主演の映画『銀嶺の王者』でロケ地が蔵王で在ったこと。この蔵王にスキー客がどっと押し寄せて好景気が続いたと云う。温泉街の3階建ての街並みは建築ラッシュの名乗りと思える。

現在はシーズン中とは言えスキー場も閑古鳥が鳴いて居るようである。

この頃は台湾客が多くなったがロープウェイでモンスターを見て2時間程度で帰ってしまうと言う。蔵王の観光にとって深刻な問題のようであ



朝日連峰の遠望

積雪の涸沢カール（穂高連峰の麓）の絶景

2019年5月5日～7日(2泊3日) 登山者4人

残雪の涸沢は古い計画書を見ると 2011 年から 8 年ぶり、今回で 4 回目となる。夏の奥穂、秋の北穂を含めると計 6 回目に成りますね。最初にこの風景を見た時は日本にも『こんな美しい雪景色』があるかと大感激。すっかり魅了され、それからあっちこっちの山の残雪巡りを始めました。ご存じのように涸沢は『日本一の紅葉』と言われ、フェスティバルがありテントの数がすごいので有名。夏は夏で高山植物がきれいです。

1 日目 船橋駅からあずさ号に乗り、上高地着 12:30、

連休明けと言う事で河童橋付近は人もまばらで穂高連峰だけが雪景色。それから歩くこと 3 時間そして横尾山 荘泊。本来であれば空いているはずが団体客がおり 50%程度の客入りだった。

2 日目 8 時出発 快晴

屏風岩を左手に所々に雪交じりの登山道をゆっくりと歩く、本谷橋でアイゼンを装着、2 日前に新雪があったがトレースがしっかり残っているので迷うことなく歩けた。涸沢近づくにつれ登山道が谷底になるので雪崩が発生地として知られているが今回は大き雪崩の形跡がない事から心配せず 4 時間歩いて涸沢小屋に到着。新雪の涸沢カールは期待を裏切らなかった、素晴らしい風景、皆からも驚嘆の声が聞こえて来た。



涸沢カールの全景（前穂高、奥穂高、北穂高等）穂高岳に向かうパーティ

話その 1 (女性 2 人昨日北穂高に登って来た話)

2 人はこの小屋で知り合って、1 人は単独登頂が予定の行動で、片方は頼んで連れて行ってもらったとのこと。ピッケルの使い方はある程度練習したと言っているが山の会にも所属せず、ベテランとも言えない感じでした。天候も良かったこと、トレースがあったことで『それほど難しくはなかった』との話。たしかに奥穂高と違い岩場が無い事からそれほど危険は無さそうであるがそれにしても普通の女性が 2 人でよくぞ登れた女は強い。話を聞いていて私も登れそうになりましたが皆さんどうですか。頂上小屋は営業していて連休明けの 7 日も 10 人は泊まっていたとのこと。

話その 2 (明日北穂高目指す登山グループの話)

18 人位の年寄グループで女性 1 人、メールで知り合った登山グループとの事。リーダー格の人が登山計画をメールで流し、参加を募る。今回北穂高を目指す人が 10 人は居るとの事、本格的な登山グループですね。夜は談話室で全員で山の歌を合唱。この形で結構続いているような話でした。

話その 3 (陰のある若き女性登山者の話)

食事前に皆でストーブを囲んでの雑談、その 1 人、20 代の女性、ちょっぴり陰のある、なかなかの美人。一昨年連れ合いを病気で亡くし、思い出の山涸沢に一人旅と云う。現在は上高地のホテルでバイト生活、休みに近隣の山々を登っているようで、かなり詳しくだったので話が弾んだ。皆に混じて表情は明るい但し連れ合いを忘れるには相当時間がかかりそう『何か良い言葉を』と思ったが見つからず。

3 日目 8 時小屋を出発、後はお決まりの明神池嘉門次小屋の岩魚焼きで乾杯。



雨飾山・八方池（北アルプス）山行記録

平成 27 年（2015）登山者：6 人

1 日目 10 月 4 日（日） 八方池（2060m）

白馬駅 11：30 タクシーで 10 分白馬ゴンドラ乗り場までそれからゴンドラで兔平駅まで 8 分天候が怪しくなり、霧がかかってきたことからレストランで食事をした。それからリフト 2 つ乗り換え八方池山荘に着いたのが 13：00



雲海の中の 八 方 池

出発地点が標高 770m、終点が 1830m 標高差 1060m この落差は晴れていれば見ごたえがあったろうと残念、それでも今回は半日工程であることから歩いたら 1 日仕事、文明の利器に感謝、八方池には、なだらかな登りが続き、歩くこと 1：30 分、その頃は霧も流れ、ほぼ晴れの天候に変わってきた。紅葉は情報通り最盛期で風景はまずまずであったが葉っぱ 1 枚 1 枚は 3 日前の強風雨の為がほとんどが 1 部朽ちた状態であった。

八方池の景観は紅葉の彩りと池の青と白い雲そのコントラストが素晴らしかった。

池の周りは 50 人程度の人混みであった。

2 日目 10 月 5 日（月） 雨飾山（1963m）

小谷温泉登山口～ 雨飾山 ～ 雨飾温泉（糸魚川）標高差 11000m 頂上横断コース 民宿 5 時宿の車で出 発 15 分で登山口についたが宿の親父さんの提案で鎌池に寄り道することになった。朝霧の中、紅葉に囲まれた静寂の鎌池、神秘さが漂っていた。 1 周 1 時間程度の小さい池、20 分程度で登山口に戻った。皆さん大喜び、親父さん有難う。6：20 出発

我々以外は2・3人グループ3組程度と思ったより少ない。登山道は初めから急登が続き整備はされているがやや狭く、登りと下りとの交差には難かしいと聞いていた通り混雑期に拍車がかかりそう。それを避けるために山頂横断を選んだのが正解であったか。評判通り、途中岩山あり、川ありで見事な紅葉の風景である。

雨飾山はその名称がロマンチックで有る事と紅葉の風景の人気に納得。

頂上に着いたのは11時ごろ、さすが紅葉の時期、狭いせいか、かなりの混雑(40人程度)天候は最高に恵まれたはずであったが頂上に着いたときは北アルプスは雲がかかり見えじまい、ほんの10分程度の遅れとの事、残念無念。

昼食をして11:40新潟側に下山。聞いていた通り登りも下山者も少なく、紅葉は変わりはないが風景に変化なく、小谷温泉側に軍配有。下山口で秘湯雨飾山荘で入浴、それからタクシーで40分、70000円で糸魚川駅、新幹線で帰路に着いた。何事も無く紅葉満期、ご苦労さんでした。

***ヒヤリハット:** 下山中アブに付きまとわれたと思い手で思い切りのけたら首を刺され、かなり痛かったので、どうも蜂であったようです。隣で歩いていた木村さんも太ももを刺され、次の日まではれがあっていたとの事。とぼっちりを受けた木村さんにとって加害者は蜂ではなく私だったようです。その場では気づかず大変失礼いたしました。

*** 民宿瑞穂:** 小谷温泉、登山口まで車で15分 宿泊2食付6,000円 送迎付

(片道6人で3,000円 鎌池寄り道チップ+3,000円、サービス良好、人柄の良い夫婦

紅葉真っ盛りの雨飾山全景



*** 雨飾温泉雨飾山荘:** 明治操業の秘湯 入浴料500円 混浴の露天風呂有

20年前まで車道が無かったので徒歩1時間半、秘湯の中の秘湯小谷側にも営雨飾荘があるので気を付けて。今回パーティの2人が宿に着いたら予約が無いので慌てたが間違えてそちらの雨飾山荘に予約、当日だったのでキャンセル料一人5,000円支払った。

気ままな男二人飯豊山（山形・福島）縦走

平成 26 年（2014） 登山者 2 人

8月9日（木）

新鎌ヶ谷 8 時半出発大宮・米沢経由飯豊山荘（山形側登山口）着 16 時 最初は避難小屋泊は荷物が重くなることから会津側からのピストン登山にしようと思ったが近い割には登山口までのアクセスに時間がかかることから山形から福島への縦走に変更。

8月10日（金）晴 コースタイム 9:10 登り 1619m 下り 170m

本来であれば人気のある、雪渓と言う危険の要素はあるが行程が楽な石転びコースを選ぶのが順当であるが、なぜか梶山コースを登ることにした。

このコースは標高差 1600 以上と半端ないのと東斜面のため、朝方の日照がキツイと言う事で日射病回避の為に 4 時半夜明けを待って出発した。

いきなりしよばなから急登、ただひたすら無言で歩くのみ、6 時間歩いて梶川峰でようやく風景が広がり大きな山並みが目に入ってきた。ここまでで標高差 1300m 登ったことになる。

飯豊山の全景



あの奥深い南アルプスに劣らないほどの大きな風景の中、風の心地良さに酔いながら北俣岳・梅花皮小屋に向かった。ただ隣り合わせに雪渓の石転びコースが目標の梅花皮小

屋まで直線で続いており、どう見ても標高差・距離から恨めしく感じた。到着15時着、10時間半のかかったことになる。梅花皮小屋は小ぎっぱりした建物で最盛期（7月末）が過ぎたせいか1・2階あわせても20人程度か、管理人が居ることから1300円徴収されたが空いていて快適であった。

外へ出ると夕暮れの中に我々が辿った標高差1619mの梶川コースの稜線がぼんやりと浮かび、ちょっぴり感動的になり、結構我々もやるじゃないと、お互いに感心しあった。考えてみたら標高差1619mプラス中間の登り含めて1700mは初めてのチャレンジであったろうか。

8月11日（土）晴 コースタイム7:20 登り800m 下り700m

快晴を予感しながら5時半出発。

今日の行程はゆったりと稜線を歩く縦走の醍醐味、高山植物の真っ盛りの中カメラを片手に男2人の気兼ねない山歩き。相変わらず登山客少なくぽつりぽつり会う程度。

12時40分飯豊本山登頂ここでも人は少なく10人程度か。

途中本山小屋の管理人は今日の泊り客はまだ居ないということで冗談半分で“お客さん泊まった行ってよ”と客引きの掛け声。思わずニンヤリ

聞いてみると原発事故の影響とのことでした。特に福島側からの登山客は極端に少ないとのことでした。考えてみたらこの期間はオリンピックのまさかり、これも影響しているのではないだろうか。

15時30分宿泊の切合小屋に到着。この山でただ1つの食事付の小屋である。ただし寝袋は持参。食事と言ってもインスタントカレーのみのお粗末さ。

昨夜の自炊（切餅入りラーメン）の方がよっぽど美味しかった。

8月13日（日）コースタイム6時間半 下り1270m

天候は崩れると予報通り、5時15分小雨の中河童着用の出発となったがまもなく小雨も止み、少々ぐずついた天候ではあったが快適な下山となった。

予定通り12時に予約をしてあった川入部落の民宿に着くが女将が出向かいしてくれて、いきなり“風呂でなきゃ駄目ですか”のこと、話を聞くと沸かすが面倒なのでシャワーで省略したいようである。無論予約通り風呂に入り、大きな座敷でビール・日本そばに無事有りつきました。どうもこの宿はツア客の定宿やしく、一般の客には面倒顔が見え見えでした。でも出発時をこの部落に泊まると一般の登山口ではなく近道ルートに車で送ってくれるとのことでした。

定刻14時40分のバスに乗り会津若松に出て、JRバスで王子に向かった。

“男2人氣楽な山旅、すべてが素晴らしかったです” 羽鳥さん有難う

中央アルプス千丈岳・甲斐駒ヶ岳登山

平成 25 年 (2013) 登山者 3 人

丁度 1 年前の 9 月 21 日、同じコースでの計画であったが前日私の家に突然のアクシデントがあり、やむなく私は断念、残り 3 人で登ったが 1 日目は順調に甲斐駒ヶ岳には登れたそうだが 2 日目の千丈岳は大雨の為に中止。そんな経緯があり、私の付き合いで 2 人が同行してくれることに成り、その時のコースで甲斐駒ヶ岳と仙丈ヶ岳に登る事になった。

1 日目 9/12 (木) 鎌ヶ谷市役所 5:40 出発 やや混んではいたが 30 分遅れで高速は花輪から乗り、甲府昭和 IC 下車一般道で芦安駐車場 (1 時間ほど遅れたために昼食なし) これから先は一般車侵入禁止の為バスに乗り替え、広川原で縄張りの関係か又別のバスに乗り換えて目的の北沢峠到着午後 3 時着

それから北沢駒仙小屋キャンプ場での昼・夜一緒の炊事である。

キムチ鍋その他もろもろ食べ放題・飲み放題・しゃべり放題 “キャンプ良いですね”

2 日 9/13 (金) 快晴 千丈岳 (3033m) 標高差 1180m



甲斐駒ヶ岳頂上付近 (右側：鳳凰三山の遠景)

北沢峠 5:50 出発 大平山荘から藪沢新道に入り、周辺は広葉樹の樹林帯で人も少なくやけに静かである。やや急な傾斜でそう厳しくもなく快調な歩行で 2 時間ちょっと歩いて馬ノ背に着く。眼前に広がる藪沢カールを抱いたアルプスの女王の名にふさわしい山頂のまでの穏やかで芝生のような美しい山肌である。振り返れば V 字谷超えのごっつい甲斐駒ヶ岳がそびえている。それから歩くこと 2 時間山頂に着く (10 時) 女性に人気の山と聞

いたが連休の前か人数が少なく、北アルプス・中央アルプスの眺望を堪能した。その日の食事はおでん、美味しかった。

3日 9/14 (日) 快晴 甲斐駒ヶ岳 (2967m) 標高差 1042m

2人は昨年登ったことからコースを変えようと言う話もあったが帰りの事もあり、暗い内の出発となるので道の良いコースの仙水峠コースをえらび4:50分夜明け前の出発となった。1時間強で仙水峠に着く。そこからは摩利支天の岸壁を眺める。

それから針葉樹林を抜けて、駒津峰に着く。駒ヶ岳の端正なピラミットの全貌が見えてくる。頂上までは直線コースを選び岩場の砂礫帯が続き足元がぐらつきながらも対面する絶景に魅せられシャッターを切りながら苦しい歩行であった。

今日からの連休のせいか頂上は結構な賑わいで標識の前の混雑はかなりのものであった。シャッターを切りながらの急登、かなり遅れての到着。みんなが休んでいるのでつい坐って休んでしまった。その間対面する鳳凰三山の奥の富士山がかすみ見えたので慌てシャッターを押したが今一の出来栄え残念でした。

それにしても昼近くまで昨日以上の快晴、この時期にしては霞のない風景が見られるとはついていましたね！

帰路首都高速道路に入って渋谷付近であわや大惨事の事故に成り所であった。私は後席に居たが一瞬の居眠り運転で助手席の大声で急ブレーキをかけ大惨事を免れた。



鳳凰三山(左・左後方にうっすらと富士山)と仙丈ヶ岳(右)の眺望(甲斐駒ヶ岳頂上にて)

台風に追われて“赤石岳（3120m）・荒川三山 縦走（3泊4日）

平成22年（2010）8月 単独行

山の会への入会3ヶ月、初めての夏山、計画はしたが誘える人もわからず、例会で思い切って募集を試みたが反応はあったが難易度、4日間の日程からか話が進まず、仕方なしに単独で登ることに成った。

1日目（8/8）

朝1番新幹線静岡着9:50、1日1本の静鉄のバスに乗り、それからシャトルバスに乗り換え1時間、榎島ロッジ着2:30、なんと奥深い山なのか、1日ばかりであった。登山期間1ヶ月も無い短いせいなのかロッジには登山客が150は居た。

2日目（8/9） コースタイム7:20 登り:1485m 千枚小屋泊

朝から小雨、6時半出発。やや緩やかな登山道を濡れながらひたすら歩く、雨具からしみて半袖シャツが濡れ体が冷えてきた、これで風が強まればトムラウシ山遭難事故のようなこともありうるのかと、ふと脳裏をかすめた。小屋着2時。小屋の周りは一帯がお花畑、昨年の秋全焼し、今は仮設小屋、建て替え工事が進んでいる。日が沈むころから雨足が強くなり、予報では沖縄付近に台風が発生し本土に向かっていているとの事。おいおい勘弁してよ！

3日目（8/10） コースタイム5:25 登り534m 下り607 荒川小屋泊

予報が外れ晴、南の空にぼんやりと富士山が見えるのではないか。快晴の中ルンルン気分です。6時出発、お花畑を通り千枚岳、悪沢岳と3000mの山が続く、何と雄大が風景か、お花畑の広くて美しい。小屋着2時、その頃から台風の影響か小雨に成り夕方には暴風雨変わった。

4日目（8/11） コース9:40 登り524m 下り2000m 榎島ロッジ泊（予定は赤石小屋）

昨夜の暴風雨何だったのか、予報も外れ、東の空は真っ赤に染まり、その南の空に富士山が雲海に浮かんでいる、神々しくなんと美しい風景か。昨夜は下山が難しいと思い小屋滞在を覚悟したのが嘘のようだ。でも予報は台風上陸で大雨。予定では途中赤石小屋泊りであるが泊まらず通過し榎島ロッジに一気に下山を覚悟し6時に出発した。快晴の中雄大な山なみを眺め、お花畑を堪能し足並み軽く赤石岳に向かう。小赤石岳分岐に荷物を置き、赤石岳に着いたのが9時、その頃はガスが発生し景観は無かった。赤石小屋を10時40分着いたが泊まらず通過、ほとんどの人が通過したようだ。それから歩く事5時間、15:40榎島ロッジに着いた。雨にはどうにか逃げきったが歩く事約10時間。

“疲れた”

5日目（8/12）

昨夜から暴風雨がひどく朝になって増してきた。昨日は大変だったが下山しなかったら2日は山小屋泊まりを思うと下山は正解だったことをあらためて思った。帰りのバスは1本のみで13時30分発、それには困ったが山小屋に滞在するよりましと思う事にし、バスに乗り嵐の中帰路に着いた。



南アルプス聖岳（3120m）光岳（2591m）縦走

平成 23 年（2013） 登山者 5 人

昨年の南アルプス赤石岳山行は同行者が見つからず単独行で尚且つ台風に追われ厳しい山行となったが今回は総勢 5 人いずれも山の会きっての健脚ぞろい。言い出しっぺと言う事でリーダーを任せられた。天候にも恵まれおかげさまで南アルプスの雄大な山々を堪能出来ました。

1 日目（8/2） 新鎌ヶ谷 8 時出発 中央道松川インター下車 民宿ひなた 15 時着
登山口の下栗の里は日本のチロルと呼ばれ、日本の原風景が残っている場所で標高 800m～1100m の急斜面に耕地と民家が滞在し、今は観光の特産物としても有名になっている。民宿でもジャガイモ、こんにゃく、豆腐料理が出ました。

2 日目（8/3） コース 7：30 時間 登り 1380m 下り 140m 聖平小屋泊
便が島登山口 5：30 出発、天候は晴れ、曇り、樹林の急登を登り西沢渡を通り、ひたすら歩く、かなり厳しい行程であったが 13：00 に聖平小屋に着いた。休憩を含んで 7：30 はコースタイム内であり上々。

3 日目（8/4） コース 10：00 登り 1337m 下り 1156m 聖岳登頂 茶臼小屋泊
ご来光は小聖岳山頂が良いと聞き 3：30 暗い中出発小聖岳山頂に 5 時に着き期待通りご来光を見る事が出来た。山頂でのご来光は最高！ 何度見ても感動！ 登山の目的の 1 番に挙げる人が多いと聞きごもっともな話、納得です。
聖岳への登頂は小屋に荷物を置けたので写真撮りながらゆっくり登れたが聖平小屋から上河内岳の標高差 500m の急登はかなりきつかった。

4 日目（8/5） コース 5：50 登り 533m 下り 461m 光岳登頂 光小屋泊
小雨であったが夜明けを待って 5 時出発今日は昨日、一昨日と違い楽な行程である。途中茶臼岳、イザルガケ岳に登ったがガスっていて視野が全く無し、だだひたすら歩き 10 時 50 分光小屋に着いた。早速宿泊を申し込むと意外や『こんなに早く着いたのであれば明日も天気も良く無いので泊まらず下山した方が良いのでは、こちらはどっちでも結構です』と管理人 2 人話して来た。事前予約で来ているのに“まあ親切な話と感心、相談の結果『麓の温泉に浸かりビールで乾杯』連想したのか全員一致で下山決定。

余談：親切にしてはちょっと変！ そう言えばこの小屋は町が経営、“やっぱし”

【後で知った事であるが小屋に早めに着いた客には『泊まらずに下山した方が良いですよ』声をかけているとの事。役所勤め、“給料変わらず労働が増えるだけ”どうもこれが真相のようでした】

ならば急げと光岳頂上へ、15 分で着いたが何と樹林の中の頂上で見晴しも今一で『おいこれが百名山かと首をかしげて』周りを見ると『光石まで 15 分』の標識を目に入り、その真相がわかるのではとためらいも無く光石に向かった。ありました想定外の巨大な岩石、5・6 には立てる、石灰岩の岩峰、突端が絶壁で眺望も絶景で納得出来た。

そこに居わせた人の話では『遠州側から夕陽に照らされて光って見えるので灯台代わりに使われた』との話。小屋への帰りに以外に時間がかかり、小屋着が12時、それから昼食の用意食事を済ませると1時近くになった。これから出発し登山口まで登り230m下り1900m7時ぐらいになり、暗い中宿を探し、ちょっと厳しすぎるので小屋に泊まることにした。

5日目(8/6) コース 5:30 登り230m 下り1900m

予想が外れ晴れである。5時出発、東の空が真っ赤に染まっていた。まさに黄金の日の出、そこには富士山の山影がくっきりと浮かんでいるではないか。いやあ!“これはすごい“山小屋の親父も『今年1番日の出』と太鼓判を押していました。

昨山下山しなくて良かったと胸をなでおろしました。途中面平からの景観が南アルプスの山なみと白い鱗雲のコラボが圧巻だった。

易老渡駐車場に10:25分着いた。万歳! 5つの笑顔がほころんだ。

光小屋からの『今年1番の日の出』



宮之浦岳・縄文杉・白谷雲水峽 縦走

<参加者>木村・四元・島本・鈴木か・井上・猪狩

猪狩 晃一

屋久島が1996年世界遺産に指定を受けたことから、元職場で縁があったが、その時、私個人は行けなかったことから今回長年の夢を叶うことが出来ました。計画については縦走か、日帰りかの検討や雨が多いことから6月の梅雨を避けて4月か、5月か、の検討そして最初の計画は5月28日出発の5日間で日帰りコースで予約しましたがその後『登山の醍醐味は何と言っても縦走』そんな声もあり、日程も梅雨時をより避けたいことから4月の提案があり、皆さんの了解を得て、4月17日出発5日間縦走コースに決定。今回は登山、観光ありの5日間の長丁場であることから作業は役割分担で皆の協力を得ることにした。

1日 (4/17火)

羽田空港7時10分発鹿児島経由高速艇で宮之浦港13時45分着
バスで安房港に向う。

* バスの中での純でのどかな風景：客が乗って来るたびに車内の学生が席を立て、ゾロゾロ後ろに下って行くのである。どうも観光客や他の客に席を譲っているようである。また下車するときはバスが完全に止ってからゆっくりと席を立ち前に進む、それが徹底されているようで驚きを感じた。それから安房港で遅れた昼食を摂り、早速観光のためのレンタカー借り、島1周の観光ドライブに向う。

* レンタカー屋さんでの事：安房港でオリックスレンタカーに連絡をして、迎えの車に全員同乗し、会社で半日レンタルの手続きをしている段階で17時まで返却が決まりである事がわかり、17時までには島1周が難しい事から1時間延長をお願いをしたら、『私どもの会社は対応出来ないので他の会社を紹介します』と車で迎えに来てくれた。簡単に他の会社に譲るとは驚きでした。

千尋の滝・大川の滝2つとも水量はそれほどではなかったが、岩の大きさとその落差、ダイナミックな自然は圧巻でした。それから2時間以上かけて島1周のドライブを楽しみました。道路は海拔100m位でしょうか、そこから垂直にそそり立つ2000m近い山なみ、その山頂はかがむと車窓からも所々で見えるのである。その景観は本土とは全くことなる風景でした。 民宿泊

2日 (4/18水) 11km コースタイム8時間

予約のタクシーで民宿4時出発、50分乗り淀川登山口に着く。例年の混み合いは連休の1週間前からとの情報通り、他の登山客も5・6人程度である。それ

から5時に登り始める。

1時間弱で淀川小屋で朝飯を摂り、この頃はすっかり明るくなり、予報通りの快晴である。計画段階での雨の心配はうそのようである。それから花之江河に向う。夏場であれば高山植物の庭園の景観を見せる花之江河は残念ながら今はただの湿原である。

シャクナゲがあっちこっちで目に付くが、日程を5月から4月に変更したために花無しのシャクナゲである。シャクナゲの花は混雑と天候との相殺で我慢。投石岳・爺岳・栗生岳の奇怪な巨石を見ながらの急登である。

12時予定通り宮之浦に到着である。全員笑顔で握手。山頂は360度の展望。屋久島の山なみは見えるが、残念ながら九州本土までは見えなかった。

心配は無人山小屋の混雑である。定員40人（この1時間先に20人定員の高塚小屋が在る）に夏場は泊まれずに、雨の日外に寝ることがあると聞いている。今回は2・3人用テント1張り用意してるとは言え、はみ出されたら大変と昼食を急ぎ、12時40分出発。新高塚小屋着3時半。なんと一番乗りである。時間とともに泊まり客が増え、最終的には15人位でしょうか。

* 山小屋での事：インターネットではヒルが山だけではなく小屋でも出ると多く書かれていたが、『書き込み：ヒルが怖ければ宮之浦岳に来るな』がその気配がまったく見られず、その代わりにネズミが運動会をしていました。

3日(4/19木) 13km コースタイム7時間

新高塚小屋を曇り空の中朝の5時に出発。歩くこと約1時間高塚小屋（定員20人）着く。丁度その頃から雨が降り出したので小屋で朝食を摂る。

小雨は苔が映えて見えると聞いていることから大歓迎である。

そこからほんのちょっと歩くといきなり、苔の原野の世界の中での縄文杉である。写真で見慣れているとは言え、その風格には圧倒される。

苔と巨木の原野の大王杉、夫婦杉、ウィルソン株を見学、その風景はまさに『もののけ姫』の世界である。

白谷雲水峡入口に着いたのが3時、小雨の中の徒歩。休憩・撮影時間を入れても10時間はかかり過ぎか。

4日(4/20金)

今日は予備日の観光。朝ゆっくりしてレンタカーで『ヤクスギランド』へ小雨の中散策に向う。縄文杉や白谷雲水峡に行けない一般客用の自然公園であるがそれは人工的なものではなく、山あり、谷あり、川あり、巨木の杉と苔の原生林である。縄文杉や白谷雲水峡よりは縮小みぎではあるが、初めての人は充分満足出来る風景である。

散策は2時間で切り上げ、それから世界遺産センターと屋久杉自然館を見学し、

それから宿泊予定の島 2 番の豪華ホテル『JR屋久島ホテル』に向う。

5日(4/21 土)

今日は朝から曇りで、午後から大きな低気圧が発生す予報が出たので午前の観光を取り止め、朝 1 番で船に乗り、鹿児島経由で東京に戻ろうと云うことに成った。変更可であったが鹿児島からの航空便はツアー予約と言うことで変更不可。仕方なく鹿児島までは午前の便に乗り、それから鹿児島で幕末の名所を観光し、羽田に着いたのが 8 時 40 分でした。

後で知ったが屋久島、鹿児島間の航空便は欠航、また高速船はくじらに衝突等のトラブルが在ったようでした。

それから『鶴瓶の家族で乾杯』が 2 週続けて屋久島が NHK で放映されました。余談ですが屋久島・鹿児島間の高速艇のガイドさんが行き・帰りとも、すこぶる美人でした。

パーティの皆さん協力有難うございました。おかげで楽しい登山でした。

追伸 『提案』

今回久しぶりに投稿させて頂きましたので、そのついでで大変申し訳ないですが、最近気になっていることを提案させて頂きたいと思います。

私事ですが今回の山行の 4 月 1 日、突然歩けないほどの腰痛に襲われました。これは大変。17 日から屋久島はどうなるか。4・5 日様子を見たが一向に良くなる兆しは見えない。

ギックリ腰であれば 10 日もあれば良くなるだろうが、神経系であれば痛みが取れても再発の可能性は否定できない。もし登山中に起ればヘリコプター騒ぎになりかねない。予兆があつてのこの騒ぎではパーティの犠牲があまりにも大きく皆さんに顔向け出来ない。断る勇気も必要と解っているが言いたしっぺであり、リーダーであることから何時言えば良いのか悩みましたが『私 1 人行けなくとも皆が行けば良いので話すのは、はっきりしてからで良い』と言う事でその間大学病院で精密検査を行い、神経系に問題がない事がわかりギックリ腰ではと云う事になりました。

それから痛みが取れた段階で確認のために重めの荷物を背負い筑波山登山をしましたが、全く体の違和感が無く、自信を持ちました。

サブリーダーの理解もあり、皆さんの了解を得て予定通り参加することにしました。この間、私がリタイアすることになったら、どんな対応をとるべきか、又メンバーの 1 人だったらリーダーとしてどう対応をすべきか、あまりに犠牲(遠方・5 日間・縦走)が大きいことから、いろいろ考えさせられました。

また会としても会員の高齢化が囁かれ始めてから久しいと思いますがその影響かどうかは別として、最近登山途中でリタイアする人が若干なりとも出ている事を耳にします。

この問題は『誰もがいつか通る道そして避けては通れない道』これはしかたない話です。

問題はその対応を含めてですが、この会は幸運にも大きなトラブル無しで35周年を迎えたわけです。前例が少ないことから（共有事項も少ない）その対応の仕方がその場、その場の判断と言うことになろうかと思えます。

その場での話し合いは、その時のリーダーの意向や感情論に左右され易くなるのではないかと懸念あります。不満が残る結果では楽しい山行はだいなしです。

そこで提案ですが1度この問題を皆で話し合っただけでどうでしょうか。

会員としては漠然とした共有事項（会則ではない）でも、あったに越したことが無いと思えます。

テーマ1：リタイアが出た場合の対応法

テーマ2：リーダーの心得とリーダーとどう付き合うべきか

（テーマ1も含めた広い意味です）

担当部を決めて広く情報を収集し、またアンケート調査の上での話し合いが有効的かと思われます。



男の第二の人生は『ぬれ落ち葉か』・『要介護族か』

平成 25 年 (2013) 記

男を揶揄する言葉に『粗大ごみ』『ぬれ落ち葉』『産業廃棄物』『わしも族=買い物にわしもついて行く』それとも『要介護族=妻との年齢と寿命の差=約 10 年』

5 年前にベストセラーになった『弧舟』渡邊淳一著はこんな男が主人公。

そこそこエリート、そこそこ出世した大会社の営業マン、バブル期はゴルフ・女・酒、帰宅はタクシー送迎の午前様、全て会社持ち、会社を辞めたら『ただの人』、日課は犬の散歩と図書館通いとやる事無しの『引きこもり』生活。同居する妻と娘に疎外され、針のむしろの毎日、男の意地とばかりに宣戦布告は良いが金無し（結婚以来預けぱなしの無頓着）、体力なし、気力なし、これじゃ敵さんに勝てるわけなし。挙句の果てに娘は夫婦喧嘩に嫌気をさし、家出同然のアパート暮らし、妻はそれに便乗後追い家出。一人残され炊事洗濯・3 度の飯。生活費と小遣いを要求するが『あなたの物（預かった金）は私の物、私の物（へそくり 40 年）は私の物』とばかり悪戦苦闘。皆さんの家はどうですか、ほとんどの方は落ち着くところに落ち着いたでしょうね。この小説はそんな深い内容ではないが『楽しく読めたら貴兄は幸せ者でしょう』『ええ私” ももちろん・です。

同級会で分かった”建設業界には癌が多い”

平成 30 年 (2018) 記

今年も 3・9 会（昭和 39 年入学から名付けた）のクラス会をやることになった。

卒業以来 4 人で幹事をやって来て 20 回位になるだろうか。

幹事 4 人の内 1 人は社長現役 60 歳で亡くなり、1 人は 3 年前同級会の段取り中に癌が発覚今だに入退院の繰り返し、1 人は糖尿を治療しながら痴ほうの奥さんを介護（令和 1 年 4 月頃夫婦共に亡くなった）。今回は新たに積極派 2 人が加わり 3 人幹事をやった。3 年前に“エンディングクラス会”と称して熱海でやることになり、最後だから派手に“コンパニオンを呼んでぱっあとやよろう”と言う事で寄付を募ったところ 15 人が賛同して 3 万円、2 万円、1 万円と何と計 20 万円近くが集まり、どんちゃん騒ぎのクラス会となった。

今回繰越金が 5 万円ほど残っていた事から、クラス会をやらざる得なかったのが正直な話である。

“本題はここからである“ 3 月 9 日大江戸温泉泊の案内状を 30 人に出した。

10 人からは参加、返信無しが 11 人（どうなっているか？）、不参加の連絡が 9 人、なんと、その内、癌に関わって居る人が 5 人、その他の治療が 1 人、ただ驚くばかりでした。

仲間は本来地味な技術屋畑であるが近年は経営、営業関係が多くなった事も有、バブル時代を含め、公私混同の遊びボケが祟ったのかと言われる所以でしょうか。

『小生真面目人生、胸をなでおろす今日この頃です』

故に『週 2 日の晩酌の休刊日を設けました』

エベレストにまつわる 3 人の化け物の話

平成 29 年(2017)12 月記

一人目は年末本文の編集をしている時偶然にも『南谷真鈴』が出演のテレビ番組をみました。私は初めて知ったのですが今年の 5 月『日本人女性の最年少エベレスト登頂』、7 大陸最高峰制覇の偉業、早稲田大学の 2 年生 19 歳、少々大柄であるがなかなかの可愛い子ちゃん、彼女曰く『私はプロの登山家ではありません、趣味の延長上で登っています』そこには『頑張り感、誇示感、生活感、悲壮感』等感じさせない飄々とした話しぶり。 “あれは宇宙人だね！”

2 人目はご存知の『80 歳でエベレスト登頂に成功した』三浦雄一郎の話。

御神輿にかつがれた様な登頂、頂上からヘリでの下山等、あれでも登山家かと登山家野口健に揶揄されながらの偉業。いずれにしる凄い、化け物 2 人ですね。

そういえばこのカラパタール山行の時、三浦雄一郎が 75 歳エベレスト登頂チャレンジや、北京オリンピックの聖火がネパールからエベレストを超えチベットへ運ぶ計画が話題になっていました。

『3 人目の化け物はこのトレッキングで会った宮原巍(たかし)の話

【ネパール人になった日本人・宮原巍の挑戦】

ヒマラヤのドン・キホーテ

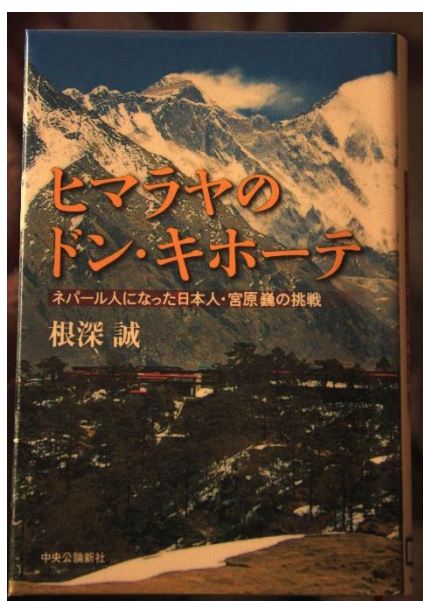
著者 根深誠

下記の文章は 5 年前位に『やまびこ』に記載されたものを 1 部編集しました。

『カラパタールトレッキング』下山後ネパールの主都カトマンズの『ホテルヒマラヤ』のロビーで仲間と雑談をしている時にサンダル履きで、ふだん着の日本人らしき 1 人の老人が話しかけてきた、その人がこのホテルのオーナーであり、また『ホテル・エベレスト・ビュー』『ヒマラヤ観光開発(株)』のオーナーでもある、この物語の主人公の宮原巍であった。世界一の標高地で、エベレストの絶景地 3,880m に建つ『ホテル・エベレスト・ビュー』建設の話、今ではホテルには自力

では行けず馬で行く話(ルクラから往復 4 日)、還暦でエベレスト登頂に挑んだ話、そしてネパールに帰化して、国会議員に挑戦すると言う話を熱く語ってくれた。

ダークダックスの『山男の唄』で知られている第一次登山ブームの頃(昭和 30 年前半)日



大の山岳部に所属し、山にのめり込み、そしてヒマラヤに憧れ、夢叶え30歳代でネパールに永住することになる。そして今度はネパールに帰化して、国会議員に立候補、落選。ましてや74歳の今にして今後も、国会議員に立候補は続けると云う。山に憑かれた破天荒人生、まさにドン・キホーテの世界でしょう。この本は言うなれば『宮原巍の自叙伝』である。著者は山岳作家の根深誠である。

さすがにプロの作家であり、インタビュー形式なので結構読み易いです。

(白井市立図書館にもありました)

今の宮原巍の近況

81歳になった今も健在でエベレスト・ビュー、カトマンズのホテルに続いてワールド航空サービスの支援を受け3つ目のホテル『ホテル・アンナプルナ・ビュー』を建設中であったが地震で遅れ現在内装工事中。アンナプルナ連峰、マナスル等の絶景地との事。

エピソード：【エベレスト街道のトレッキングの時偶然遭遇】

3年前の当時、ヒマラヤ観光開発(株)のエベレスト街道のツアーは『憧れのホテル・エベレストビューに泊まる』をキャッチフレーズにしていました。

私どものパーティも下山途中、600m登り直して寄り道をして宿泊した。

外観はシティホテル並でそれなりに自然との調和は配慮されてはいるがヒマラヤの山奥には全く見かけない近代的な建物に驚かせられました。

そしてその絶景は評判通り、エベレストをはじめローツェ、アダムプラム等ヒマラヤの名峰のパノラマが眼前に迫って来るすごい迫力。

ただ内部もシティホテル並のではあるが燃料事情により、エアコンでは無く石油ストーブ、バスルームはお湯が出ず、バケツのお湯で体を拭く程度でした。

石油ストーブだけの寒い大食堂は残念ながら期待はずれでしたがここで幸運にも、このホテルの設計者の遺族とその関係者の日本人グループに会い思い出話に入れてもらいました。

設計者はオーナーの宮原巍氏とは若き日の登山仲間との事でした。

女性のお孫さんや大学の後輩等を含めた総勢10人で『弔い記念登山』として来たとの事でした。この人たちにとって48年前に標高3880mのヒマラヤの山奥にヘリポート付のホテル建設の功績は大きな自慢の評価なのでしょう。

資材を人力で運搬し建設したと言う。

東北被災地ボランティアと私が関わった津波体験館

平成 23 年 (2011) 5 月 記

東葛山の会がボランティア活動に参加する事になり。3泊3日で5人が第1陣として石巻市に行くことになった。午後5時車で新鎌ヶ谷を出発東北自動車道路は交通止めが多く一般道も使いながらであった。そして奥松島の河川敷でテント泊をした。翌朝『労山石巻山の会』の人と待ち合わせして被災現場へ。

1日目、2日目ともは依頼先のビニールハウスのヘドロの撤去

夕方早めに作業を終え、被災地見学の案内してもらった テレビでは何度も見ただが言葉では表現できない変わり果てた異様な風景、この世のものとは思えなかった。そしてその日の夜、宿泊先の地域センターで夜食事が終わってから石巻山の会の皆さんと交流会があり現地会員10人位集まってくれた、我々5人も参加、震災があってから初めての顔合わせとの事、懐かしそうに笑顔で無事を確かめあっていた。

順番に自己紹介を含めて、被災のそれぞれの体験を聞く事に成った。

- ・津波に流され2階建ての屋根に居る人たちに手で引っ張られ屋根に乗り一晩中寒さに震え、夜明けを待った人。
- ・新築の家を流された人、
- ・買ったばかりの新車が水浸しになった人
- ・身内が流されて亡くなった話

この津波の大きさは想定以上に大きかったことは間違いないが問題なのは皆が津波の危機感が薄らいでいた』とも話していた。

“無理ないですよ！ 天災は忘れたところにやってくる”

10人皆が本当に悲惨な体験談でしたがただ聞いていて救われたのはこの悲惨な話を普通の調子で話されたことでした。

唐桑半島ビジターセンターの津波体験館の話 (偶然にも私が設計を担当した)

この被災地に来て思い出したのは石巻市から近い岩手県気仙沼市にある『唐桑半島ビジターセンター』環境庁が国立公園内に建設している自然のインフォメーションセンターである。たまたま20年前(震災日より)に環境庁の仕事で私が設計を担当し当時旧唐桑町を訪ね驚いたのは道路や目ぼしい所にポールが立っており地盤より5mぐらいに赤マークあった。

それが過去の津波の水位との事でした。設計にあたり、環境庁、唐桑町と設計者の会合が持たれた。その会合に町長が出席し『この町は津波の歴史があり町民に警鐘を鳴らす必要あり、その手段として今回の展示に加えて欲しい』との要望があった。『リアス式海岸であり、いざ津波が押し寄せたら大変なことになる』と熱く語っていました。環境庁も私どもも理解したが『町民のみんなが津波に危機感を持ってもらう展示とはどうゆうものなのか検討が付かず困ったがそれから何度も協議を重ね『津波の体験館の併設』を決めた。建屋は20坪くらいし、それからが大変、津波の再現をどうするか。試行錯誤、予算もあり、水を使って波の再現は大掛かりになり予算がオーバー、結果としてまとまったのは約7m四方の床版を建屋から離し左右に動かし、振動を加えた、言うなれば地震体験装置みたいなものでした。

20年前から強い警鐘を鳴らしていた人は居たんですね。

皆が津波の危機感もって生活をしていたら犠牲者がもっともって少なくて済んだかもしれませんが。まさか 20 年後にこんなにも悲惨な津波災害が来るとは！！！！



津波体験館の内部



唐桑半島ビジターセンター外観

東北大震災でやばかった我が家の欠陥 (ちょっと参考になるかも！)

平成 23 年 (2011) 5 月 記

今回の地震は何処で遭いましたか。被害はどうでしたか。

私は 1 人自宅でパソコンをしている時に“ぐらり”と大きく揺れ慌てて買ったばかりの 32 インチのテレビを抑えてしまいました。被害は家具の扉が開き 4・5 個の食器類がはみ出し壊れたのと、内壁に若干の亀裂が入った程度でした。あれだけの地震でこの程度の被害は良しとすべきでしょう。

我が家は築 15 年と少々古くなりましたが注文住宅でうるさく設計・監理したのでそれなりにしっかりした建物と思っていましたが思いがけない欠陥を思い出しました。3 年ぐらい前になりますが BS アンテナを設置した時電気屋さんから『天井裏の小屋組みのボルトが緩んでいるので締め直した方が良いよ』と言われたのを、この地震で急に思い出し“ぞっと”としました。

地震が治まるのを待って慌てて小屋裏に潜りボルトのゆるみを確認したら全てのボルトが緩んで居ました。被害がああ程度済んで良かったと胸をなでおろしました。工務店に事情を聞いたところ『木材は完全に乾燥した物を使うわけでも無いのでボルトは緩むので半年・1 年後に締め直しが必要』との事。

こう言う問題は工務店が対応すべきでしょうが実態は難しいですね。

次の自信が来る前にとボルト締めを依頼あしましたが対応が遅れるとの事、やむ得ず自分でやることにし、早速ホームセンターでスパナ類と緩み止めのスプリングワッシャーを購入し、その日の内に天井裏に潜り込みボルト締めを始めました。我が家は在来工法なのでボルトの数が 30 本ぐらいと多かった。

その日は不幸にも日照りが強く小屋裏は狭くてむんむんと熱く、作業は進まず 2 日がかかりとなった。

登山再会と東葛山の会入会時の自己紹介

平成 22 年（2010）6 月記

私 57 歳、登山を再開のきっかけになったのは仕事仲間でもある友人から『こんな生活(仕事と酒浸り)をしていたら早死にするぞ、山をやらんか』いきなり言われ、・・・大きなお世話だ！お前も俺と変わらんだろうが、・・・そんな言葉を飲み込んだが。“なぜ”彼から山の話が出たのか一瞬不思議に思ったがよくよく聞いてみると、どうも真相は糖尿病で医師から進められて山登りを始めたようだ。(糖尿病には長時間歩くので最高の治療法との事) 私事、仕事は設計士ではあるが責任者と言う事で営業が主となり酒はついてまわる、まさに公私混同酒浸りの仕事であった。山との付き合いは昭和 30 年代『山男の唄』が流行った高校時代から始まり、上京してからもそれなりに続け、夜行列車のあずさ号で北アルプスにも登ったりしたがその内結婚、子供を授かり仕事が忙しくなるはですっかり忘れてしまっていた。よくよく考えてみたら『彼の話ももっともだし、健康のためにも、リタイア後の暇つぶしにも良いや』と言う事で山登りを再開した。今では彼には大感謝。

20 数年ぶりの最初の登山は妻を誘い、山は丹沢の大山を選んだ。なぜかと言うとバテ場阿合は下山にケーブルカーが使えるからであった。

女房は毎日のようにスポーツジムに通っていることもあり、結構な健脚で私は日頃の生活が祟り、妻に尻をたたかれ、ヒィヒィしながら何とか登り切り、どうにかケーブルカーに乗らず自力で下山も出来た。それから単独、夫婦や友人夫婦も同行して登山を続けた。

そしてリタイア同時に腰痛手術もありゴルフを止め、山登り一辺倒に決め、印西市内の登山教室に夫婦で 2 年間活動したがそのサークルが解散したことから個人山行に戻った。この頃から 100 名山が流行り出し、主に夫婦登山で年に 10 峰以上登った事もあった。その頃『昔取ったきねづか』と言う事で写真も再開し、健忘症にかかりかけている私には『より風景を楽しむにはもってこいの手段でした』

北アルプス等の人気の山も良かったし、山小屋泊での日の出、日入りは写真には絶好の被写体でした。特に私が惚れ込んだのは雪景色で、すっかりはまってしまったが特別な雪山訓練を経験していないことから仕方なしに 4・5 月の残雪期に安全な山を選び、かなりの数の雪山に登った。時には厳冬期のツアにも参加した。今は写真サークルに籍を置き山の写真を発表しています。

山の会の入会の動機は女房の半月板の故障で山登りが難しくなり、66 歳の年齢では単独行も安全の面で厳しいし、『この年齢で山の会で受け入れてくれるか』との友人の心配もあった。調べるとこの地域には『東葛山の会』ぐらいしかないことが解り、主催する一般公開登山に参加したり、また写真サークルの仲間も会員である事も知り、紹介も受け入会させて頂きました。入会したら取り越し苦労でそれなりに高齢者も多かったので安心しました。

レッツ “GOTO トラベル” で尾瀬が原・奥日光

令和2年 夫婦旅

コロナ禍2年ストレス満杯、小金がたまった（山無し、飲み会無し、濃厚接触無し故に金の使い道無し）ましてや今回は10万円の給付金とGOTOトラベル、行かない手は無い。また一方高齢者の長距離運転、もしやの感染、年金暮らしの身で危険な場所への世間の批判、それはそれとして給付金でホストクラブやキャバクラへ行くよりはまし、何はともあれ**GOTOトラベルは国策であり、国民としての義務**として珍騒動の上決行することになった。さて何処へ行くか、どこに泊まるか。連日の気温35度越えから涼しい所、ホテル代35%引き、めったに行けない高級ホテルと言う事で連れの意向も組んで尾瀬が原と奥日光に決めた。

8/2（火） 8時出発 外環 ～ 関越自動車道路 ～ 11:00 伊香保温泉観光

温泉街は石段の中央道路を挟んで参道のように左右に商店が建ち並んでいる。温泉の香りが醸し出され、観光客も少なかったがそれなりに見ごたえはあった。ご多分に漏れずこの地も観光客の減少、店並みの虫食い状態が気になった。

吹割の滝（沼田市）見学

片品溪谷沿いに遊歩道があり、駐車場から山の中腹まで樹林の中、急登が続き、心地よい風と日陰の中1時間半歩き、下った所が終点の吹き割の滝である。

水しぶきが吹き上がるように舞い、川底が割れた形状で滝になっている高さ7m幅30m『東洋のナイアガラの滝』呼ばれているようだ。



今日の宿は片品村尾瀬高原ホテル、尾瀬に1番近い宿泊施設であり、鳩町峠行のバス停である事で選んだ。ここはスキー場内のホテルで、この季節は学校の合宿、尾瀬が原等の前泊の山小屋として、利用されているようであるがコレラで客が激減、夕食は食堂で三密とは無縁、客は10人ちょっと、料金10,000円（割引で6,500）値段相応の宿であったが。

8/3（水）尾瀬ヶ原散策

ホテルに車を置いて6:30発のバスで30分位乗って鳩町峠に着いた。車の乗り入れ禁止ではないがやはり駐車場（40台ぐらい収容との事）はほぼ満杯のようだ。ここは他に停める場所が無いことから村に戻る事になるとの事。

そこから山鼻ビジターセンターまで歩いて50分、ビジターセンターで情報収集1日の計画を練った。帰りのバスの時間、奥日光への道のりを考えると1番オーソドクな見晴十字路から東電小屋経由でビジターセンター迄4時間半の行程となった。この時期見ごたえのある花は期待できないようで『池塘浮葉植物のヒツジ草』（オゼコウホネも生殖しているが違いが分かりにくい）だけが頼りである。ヒツジ草（ひつじの刻＝午後2時に花を咲かせる）は午前中は小さなつぼみで葉だけが目立つ程度で花の楽園尾瀬ヶ原もちょっと殺風景な風景である。午後になってやっとヒツジ草が花開き池塘を彩った。カンカン照りで無く、気温も25℃、時としてそよ風も吹き、人はまばらで、快適な尾瀬の旅であった。

尾瀬が原の池塘の映り絵（フォト俳句）



GOTOで むっつり夫婦 尾瀬の旅

上記フォト俳句の解説（TV番組プレバトファンとして1句）

『むっつりは寡黙』と訳し『自粛で疲れた微妙な夫婦感情・旅行への後ろめたさ』、の意味、季語は尾瀬（夏山）、くれぐれも『むっつり助平』はご勘弁を。

今日の泊は念願の『金谷ホテル中禅寺湖』名門ホテルで名高い。本家は日光市街地であるが宿泊費 27,000（割引で 17,550）が同額であることから次の日の湖畔巡りの予定を考慮し中禅寺湖を選んだ。私にとって現役以来の贅沢である。考えることは皆同じ、割引が大きい宿と言う事でこちらは満室との事、ただ夕食のレストランは人数制限をしたのか 3 密を避けたレイアウトであった。それとなんとと言っても食事がうまい。作法に従った洋食も久しぶり”さすが一流 “ですね。

明治の洋館風の外観の金谷ホテル中禅寺湖



8/4（木）安全運転のため明るい内の帰宅と、中禅寺湖の遊歩道散策に決め、樹林の日陰の中、暑さもなく湖の景観を楽しみながらの散策、華厳滝まで約 1 時間余り、遊歩道や店並みは観光客も少なく、さすが滝付近は若干の人混みで滝は水量も多く、水しぶきに濡れて心地よかった。バス利用で竜頭の滝を見学した。

コロナ禍で変わるこれからの価値観

令和2年5月(2020) 記

コロナ収束の予測がつかず、不安から恐怖に代わり、ストレスが限界、長期化はやむ無しか、そして収束に向かったとしても、その後の価値観、環境とあらゆるものが変わるでしょうね。そんな中、山登りは、どう変わるのか。同行者の歩行間を2m、会話も出来ない。それより困るのは典型的な3密である山小屋泊は難しいでしょう。雑魚寝の小屋は大方消えてなくなり、スイスアルプスの個室中心の高原ホテルに様変わるのか？えらい高い料金になるのでしょうかね。

趣味の世界からの登山が難しい！ ドロンにお任せ！

もう一つの危惧は物価の値上がり年金で生活できるのか。東日本震災の復興よりは厳しいでしょうし、リーマンショック、世界大恐慌、戦後の復興等と比べてどうなのか。経済破綻状態があるのかいずれにしろ生きづらさは逃れられないでしょう。日本の経済復興はどうなるか。日本は世界に類を見ない借金王国で、1,000兆円の国債(国民1人700万円の借金)。今後の復興負担としてはどこまで加算されるのか。どう考えても、値上げもあり我々高齢者が年金で悠々自適とはいかんでしょうね。世間では失業者が溢れて、賦課方式(若い人の分をもらっている)であることから現役労働者は黙っていないでしょうね。果たして年金減額はあるのか。

経済活動が近々再開されるでしょうがその時こそが高齢者のピンチ。経済活動とはコロナとの共存、すなわち少々の感染者はやむなし、死に至るのは高齢者、若い人は軽いと言う。年金、医療、福祉等で負担をかけている高齢者、マスコミ等では言葉はないが弱者の排除の思想が潜んでいないか。医療崩壊の現場ではその差別化が始まっている国も有ると言う。特効薬、ワクチンが何時になるか。第2波はあるのか。“くわばら、くわばら” 最悪のシナリオでごめんなさい。
“楽しい話はテレビでただし悲しいかな録画ばかりですが”

【手賀沼ウオーキング 1】 コロナ禍で “巣ごもり生活” と居残り白鳥

令和 2 年 (2020) 6 月 記

先月号のちょっと一言ではコロナ禍の暗い話を紹介させて頂きましたが今回は『何か明るい話題』をと白鳥の写真を記載させて頂きました。

それにしてもこの生活はいつまで続くのか、いろんな面で変化を強いられるのでしょうか。家族間も今までは適度な距離感で和を保ってきたが 24 時間べったり無期限? “どうなっちゃうのか”
『なぞかけクイズ』

【コロナ禍でのつがい生活】 とかけまて

【巣もごもり期間〇年】 と解きます。

その心は【地獄か、天国 (蜜月生活) か、それともかかあ天下か】

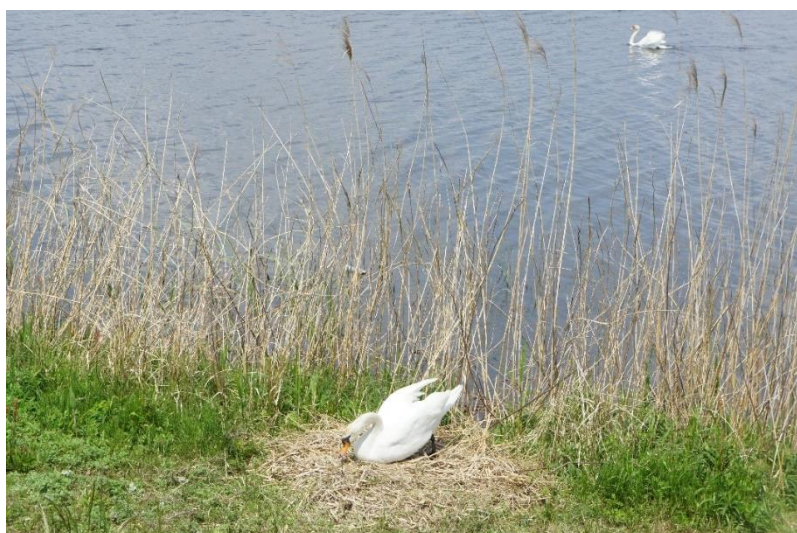
『我が家の対処策はウオーキングとつまみ作りそして晩酌』

近隣の大型公園等のウオーキングを始めた。『21 世紀の森と広場』、『あけぼの農業公園』、『手賀沼公園』、『北総花の丘公園』等は車を走らせ 2 時間程度歩くそんなことを日課にしています。白鳥の撮影地は我が家からは『白井の今井の桜』を曲がって手賀の丘公園を突っ切って手賀沼湖畔に出る、駐車場もあるが閉まってもみんな農道に止めている。柏方面はサイクリング道と遊歩道が整備され、歩き易いが佐倉方面は未整備であるが人が少ないのが良からうと歩き出すと白鳥がちらほら飛び廻って雑草を食べているが目につく、要するに『居残り白鳥』ですよね! そんな中で『ヨシで作った巣』で卵 7 つを温めている白鳥と子連れつがいの白鳥がえらく気になったのでシャッターを切りました。

心配性か『夏は大丈夫、エサはあるの、ふ化して子供は大丈夫か』と気になることばかり、『居残り白鳥』と『今の私共の巣ごもり』そして『ポツンと一軒家』TV 番組 視聴率 1 番のヒット作、不思議ですね、こんなテーマがなぜ! ほとんどは 1 人暮らしか夫婦 2 人生活、世間とは遮断、孤独な生活でも面白いが、『3 者ともども悲哀を感じるのは私だけ!』

残り白鳥の生態の豆知識

その多くは羽の外傷でシベリアの北帰は難しい、産卵の為の居残りはどれぐらいいるのかは



不明、ほとんどはすがいか単独である。

30 日前後でふ化するすると云う、野生の白鳥はマコモと言う水草を主食にしているが居残り白鳥はクローバーのような雑草を食べ続けていた。熱い時はヨシの木陰に沈んだりし、猛暑を越せる耐性はある様である。

【手賀沼ウオーキング2】居残り白鳥は別種『迷惑鳥』だった

令和2年（2020）7月 記

『やまびこ 6月号』で居残り白鳥の悲しい行方を紹介しましたが実は居残りではなく、北帰行しない『異種のコブハクチョウ』だったという話です。

5月の初め、手賀沼湖畔で7つの卵を温めているスガイの白鳥に出会い、それから『何時ふ化するのかと』と気になり、ウオーキングで何度か尋ね6月の初めに2羽の子連れ白鳥に再会出来た。“思わずにっこり”場所から見てもあの卵がふ化したのは間違いないはず。ではなぜ7つの卵が2羽なのか、それは追って説明します。それにしても生まれて1週間か、10日ぐらいか、“よちよち歩きも可愛いいが手賀沼の大海原で舞う姿もまた美しい”

『コブハクチョウ』の豆知識（朝日新聞・我孫子市鳥の博物館より）

6月号では居残り白鳥のその多くは『羽の外傷等でシベリアへの北帰行は難しいとか、産卵の為にやむなく』居残ったと紹介しましたが、また『夏は大丈夫！エサはあるの、ふ化して子供は大丈夫か』と心配しましたがどうも私の知識不足で

間違って紹介したようです。“実は居残り白鳥のほとんどは別の種類で北帰行しない『コブハクチョウ』との事でした。コブハクチョウは元来ヨーロッパや中央アジア分布し、日本では飼われたものが逃げ出して野生化、各地に住み着いたようです。現在手賀沼の周辺には150から200羽が渡りせず定着している。そして稲の苗を食べたり、水辺の植物を根こそぎ食べることから生態系に影響を及ぼすとして柏市・印西市・我孫子市の3市が共同でその対応をしているようです。優雅な姿はオオハクチョウと変わらず、市民の人気がある事から手賀沼から追い払う事までは出来ず、これ以上数を増やさない策として【7つの卵がなぜ2羽のヒナになった】その疑問は“】残り5つの卵を石膏の偽卵に変えた様です。



コロナ禍で入院と初夢

令和3年(2021)12月 記

コロナ禍で例会、登山活動もほとんど中止、欠席で何かとご迷惑おかけしましたが、そんな自粛生活である日突然起きた体の異変そしてコロナ禍の真っ只中での入院と言う貴重な体験談を書かせて頂きます。

10月2日起床時、血圧(上:125、下:73)は平常値ですが、**脈拍が通常(50~60)が117の表示**、再測定しても110とさほど変わらず。その日は高血圧で通院の予約の日、早速某クリニックで心電図を測定、その結果『発作性心房細動(不整脈)』と診断された。

“**なんでこの時期に基礎疾患とは**”とがっくりしていると「**癌より厄介じゃないよ**」と慰めの言葉なのか軽く言われてしまった。その後カテーテルの専門の病院を紹介され精密検査した結果、診断通りの心房細動、治療法は投薬治療(完治ではなく投薬の継続)とカテーテルアブレーション(心筋焼灼術)の2通りがあり、前者はだんだん効かなくなるので強い薬になっていくとの事。後者は高齢者の完治は70%程度であるが、早期発見の場合完治の確率が高いとの事、迷わずカテーテルアブレーション手術を希望した。

入院予約は相当の混み合いで、1ヶ月半後の12月2日から約1週間に決まった。“**ところがなんと**”その後コロナ者の感染が日に日に増えて行くではないか!

“**予定通り入院すべきか!リスクを避けて、とりあえず投薬治療でのコロナ禍が落ちついでからの入院ではどうか!**”

急がないと完治の確率が低下するし、今後コロナ禍がどうなるのか予測がつかない。迷いに迷ったが“**ここは中途半端では今後の登山活動は無理**”と言う事で予定通り手術を決め、余計なことは考えない事にした。

入院の前日『PCR検査』をして陰性であることを確認の上、12月2日入院となった。コロナ感染の面から念のため個室(短期間で保険あり)を申し込んでおいたが、空きがなく4人部屋となった。

ところが検査を終えて部屋に戻ると隣の患者の咳き込みが激しい。その内に患者と看護師の会話で“**体温が37.1度**”の声が聞こえてきた。…これって感染者じゃないの大丈夫!…

しばらくして看護師が訪ねて来たので、「隣の人、咳が続いているし体温が高いようですが大丈夫ですか」と尋ねた。「PCR検査をしているので大丈夫…100%ではないですが…」との事。**ところが驚いたのは“医療従事者はPCR検査はやっていない”との事。“そんな馬鹿な話ってある”**ご多分に漏れず患者は高齢者が多いはず、医療従事者は家族構成及び仕事の面から見ても濃厚接触がはるかに多いはず。(この時点では医療・福祉従事者のPCR検査の義務はなかった)

政治が悪いのか病院が悪いのかどう見てもおかしい。白井市でも希望すればPCR検査は5,000円で誰でもできるし、治療費にのっけてもたかが知れた金額のはず。(今回の入院は結果として3泊4日で医療費約60万円であった)。かかりつけの某クリニックも**医療従事者はPCR検査はやっていないとの事。やらない理由は何ですかね。**

この病院は世間的には一流と言われているが『病院の疲弊』は思ったより厳しいのか、一般

病棟まで浸透しているように感じた。看護師さん、食事係等のちぐはぐな面がかなり気になった。(点滴注射の再々のミスや配膳の2度にわたる連絡ミス等、入院中2食のみなのに、その他)手術は順調であった事、医療従事者のこの時期のご苦労を考えて苦情は言わなかった。今日で退院してからほぼ2週間、感染は大丈夫でしょう。経過も順調でほっとしている。

* 事後談として残念な話であったがこの記事を読んで『猪狩は心臓疾患患者』扱いで会の山行計画の参加を敬遠されたのには驚いた。

*

『ヒマラヤアンナプルナ展望トレッキングの初夢登山』

行程は1週間程度、経費20～30万円、やや緩い山、時期として春はシャクナゲが良いが若干霞が出て展望(8,000m級3峰)に問題があり。乾季の秋から冬は雨も降らず、展望も申し分なし、憧れのビューホテル宿泊も良い。(エベレストビューホテルと同じ日本人オーナー)

『やまびこ』は登山誌であることから無理して初夢登山を追加で書いたが、いずれにしろ、もろもろの条件が満たされないと無理ですがね。

アンナプルナの眺望 (ネットから引用)



山岳写真集 1 北アルプス白馬岳 (2932m) 8月



台風一過荒れ狂う杓子岳と鍵ヶ岳 (右下赤い花)

白馬岳山頂にて



白馬岳山頂を目指して



雲に覆われた白馬岳山頂

北アルプス北穂高岳（3190m） 9月



槍ヶ岳の全貌 北穂頂上にて



槍ヶ岳と山荘 北穂頂上小屋にて（日本一の高い場所にある小屋）

尾瀬 至仏山 (2228m) 5月



飯豊山の遠望 至仏山山頂にて



燧ヶ岳の遠望 (左奥飯豊山) 至仏山山頂にて

北アルプス黒部五郎岳（2840m）7月



黒部五郎岳の遠望



左端 黒部五郎岳（頂上に人影）

北アルプス奥穂高岳（3190m） 8月



朝日を浴びる槍ヶ岳 奥穂高岳山頂にて



朝日を浴びる槍ヶ岳 奥穂高岳山頂にて

北アルプス丸山（2452m西穂高） 5月



弓折岳の遠望 丸山（西穂）にて



笠が岳の遠望 丸山（西穂）にて

北アルプス五竜岳（2814m） 8月



雲海の五竜岳（左） 右奥は剣・立山連峰 唐松岳にて

尾白川溪谷の紅葉 11月



涸沢カールの四季（穂高連峰の麓） 紅葉



涸沢カールの紅葉は日本一言われている



山小屋に届ける荷物 涸沢カールにて

涸沢カールの四季（穂高連峰の麓）夏期



奥穂高岳（背景）を目指して



高山植物と涸沢ヒュッテ

上高地の四季 積雪期（山行記録に記載）



上高地明神池
神池

上高地明神池

明神池



大正池

上高地の四季 紅葉期



かっぱ橋



岳沢湿地

上高地の四季 夏期 岳沢湿地



裏磐梯 五色沼 1月 磐梯山の遠望



尾瀬ヶ原の四季（残雪期 5月）



朝霧の中 燧ヶ岳に向うパーティ



朝霧の燧ヶ岳

尾瀬ヶ原の四季 6月



池塘に咲く蜘蛛の花 末の刻（午後2時）花を咲かせるヒツジクサ



水芭蕉とリュウキンカ

尾瀬ヶ原の四季 8月



朝霧の中の少女（背景至仏山）



朝露に水面描くヒカソかな

蜘蛛の芸術

白山（北陸：2702m）頂上にて 7月 “日の出に万歳”



雲海の中の斜里岳（北海道：1547m）7月 前日に登山



日光白根山 (2578m) 9月



北アルプス蝶が岳 (2677m) 5月



穂高連峰 (右端や槍が岳) 望む 蝶が岳 (2,677M) にて



蝶が岳 (2,677M) 山頂

新雪の美ヶ原 (2034m) 12月

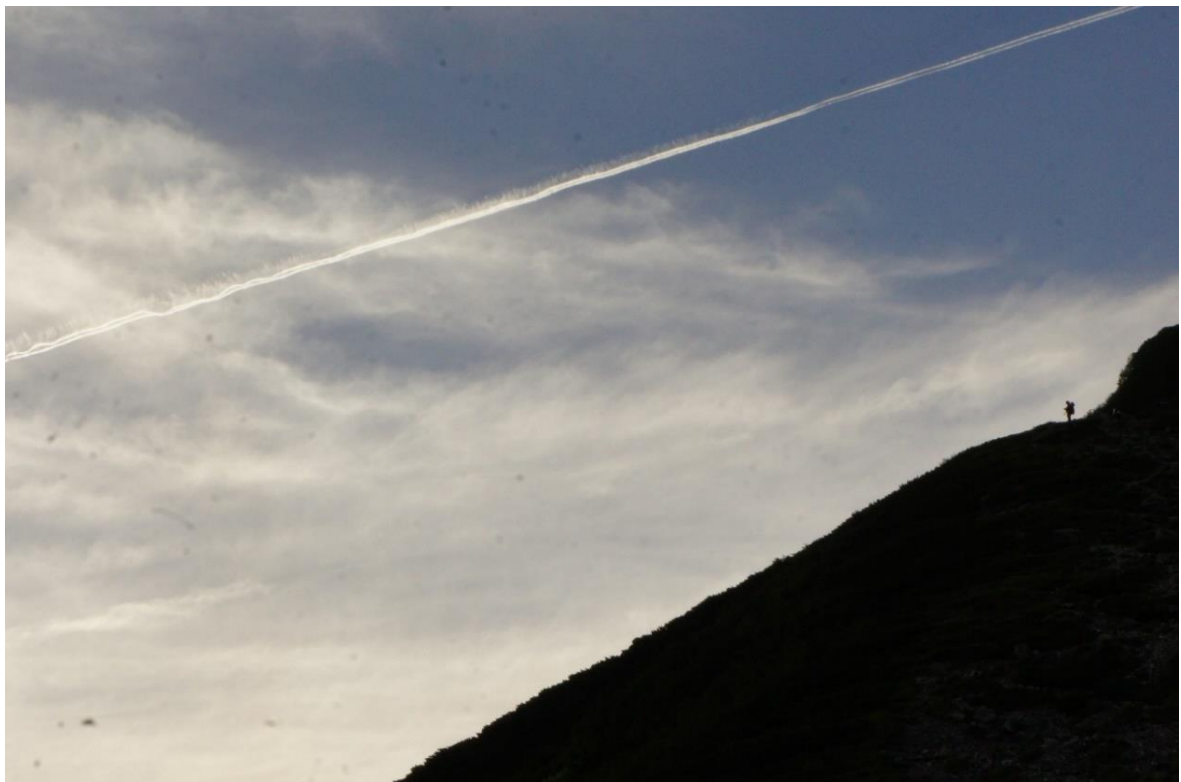


霧氷 新雪に抱かれて

南アルプス仙丈ヶ岳（3033m）・甲斐駒ヶ岳（2967m）7月



甲斐駒ヶ岳の遠望 仙丈ヶ岳山頂にて



飛行船を眺める（右端に登山者） 甲斐駒ヶ岳山頂付近にて

スイスアルプス 7月



マンハッタンの遠望 シュパアルスゼーにて



ゴルナー氷河 (モンテローザ左を背景に)

アメリカグランドキャニオン 7月

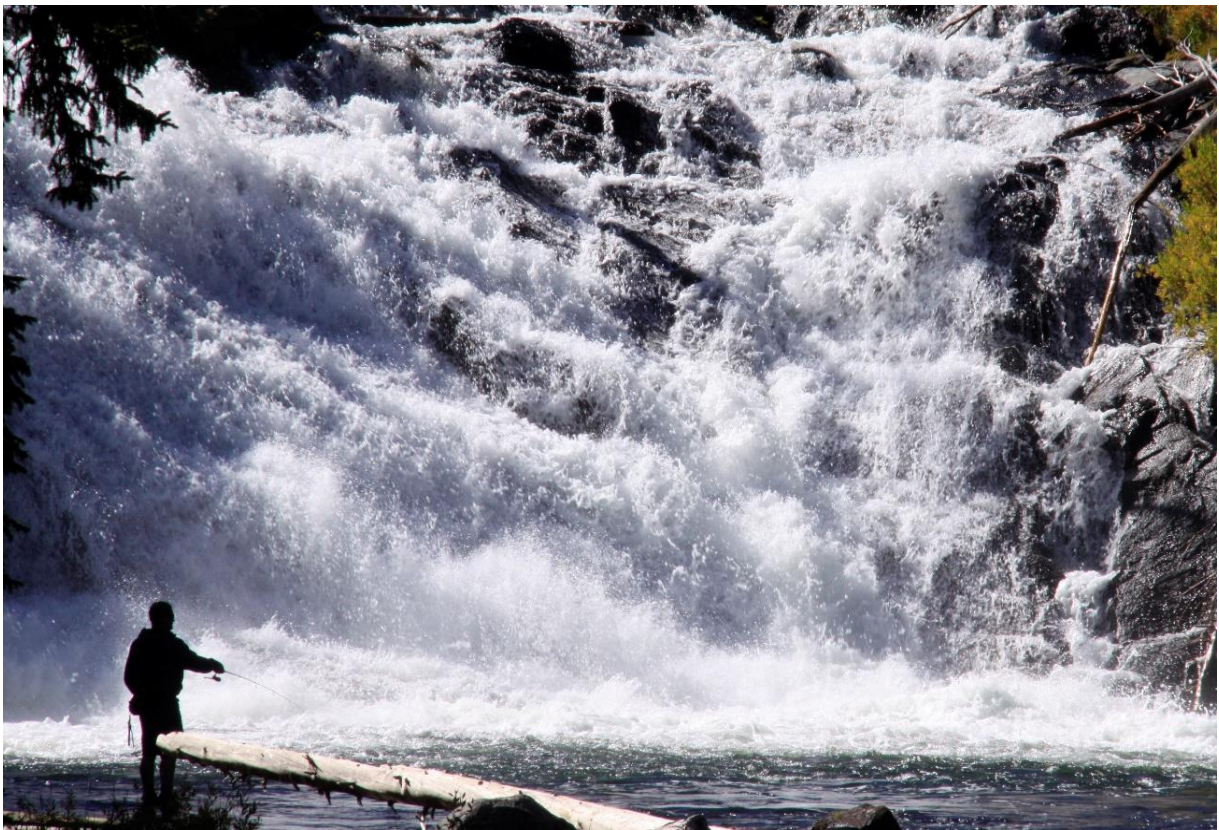


谷底までは1200m 途中でやめました

A アメリカロッキー山脈の旅 7月



ロッキー山脈



釣り人

京都の紅葉



苔寺



高瀬川の桜並木



高台寺

山梨県塩山の干し柿風景 12月



香川県栗林公園 6月



奈良長谷寺 4月



散りつつも 美しきかな 古代蓮

埼玉県行田市の古代ハス里で7月9日蓮の花、蕾の開き始めが美しいのであろうが、こう見ると散り行く花びらや葉も蜂の巣のような逆円錐状の花託（かたく）も捨てたもんじゃない。



蓮の花 描く人まで 和仕度か

敬意をはらい和風の仕事着で写生か、でもよく似合う)



白井市庁舎建設委員として社会貢献 6 年間

リタイア後社会貢献の一環として建築の専門家として依頼を受け 6 年間、企画、基本設計、実施設計、工事までを携わってきました。

概要：工事費 34 億円 床面積 11, 000 m² 新築 6, 000 m²、減築改修棟 5, 000 m²

企画・基本設計 2012 年度～3 年間、実施設計 15 年度、1 期工事 16 年度、2 期工事 17 年度。

既存庁舎は耐震診断の結果耐震補強が必要となり、庁舎としての床面積不足ため、増築を含めて検討委員会が出来そのメンバーに選ばれた。

既存減築改修棟は 5 階部分を解体、4 階建し、即ち減築する事により耐震をクリアし、構造体をのみ残し、全て改修する案とした。新築棟は 3 階建 6, 000 m²を隣接させ廊下で一体化させた。

大型工事には水面下での利害の話があると言う。噂も含めていろいろ疑念がありました。

減築案は必ずしもベストな案とも言えず、減築と言う珍しい工法の為うまく行けば名誉につながる。現に完成後新聞にも載り、表彰もされた。正当な議論も難しかった事、企画段階で無駄な検討が多く、3 年かかり、結果として東京オリンピックと重なり物価高騰で 2・30%数億円の損失が出た。であれば全面新築の方がよっぽど良かったとの疑問が残った。

平成 26 年 7 月 9 日現在
白井市庁舎建設等検討委員会 委員名簿

区分	氏名	備考
議 会	秋本 亨志	白井市議会 議長
	福井 みち子	白井市議会 副議長
	谷嶋 稔	白井市議会 総務常任委員会委員長
学識経験者	川岸 梅和	日本大学生産工学部教授
	川島 晃	日本大学生産工学部教授
	岡野 三之	白井市役所庁舎整備検討委員会 積算分科会委員
	猪狩 晃一	白井市役所庁舎整備検討委員会 積算分科会委員
	佐藤 昭一	白井市役所庁舎整備検討委員会 積算分科会委員
各種団体	渡辺 忠明	技術士（建設部門、環境部門）
	竹内 正一	白井市自治連合会代表
	鈴木 富	白井市自治連合会代表
一般公募	林 晃弘	白井市中心身障害者福祉連絡協議会推薦
	加藤 恵泉	白井市富士
	藤森 義韶	白井市池の上
	清水 宏	白井市大山口
	高山 弘美	白井市根
市 職 員	加瀬 栄男	白井市清水口
	伊藤 道行	副市長
	寺島 聡	建築指導課長
	三山 陸雄	庁舎建設等庁内検討委員会委員長

趣味の陶芸

妻と一緒に始めて 15 年以上になる。その間千葉県生涯大学陶芸科（2 年間）入学したりと何だかんだと続いている。市の施設を利用したサークルでは週 1 回で生活用の器作りと月 1 回展示会出展のオブジェ制作にゼミに通っている。千葉県展と日工会（日展の下で上野の都立美術館で展示）毎年応募し展示している。妻は性に合ったのか、真面目にやっているようで県展は 2 回入賞し、正会員として登録されたようだ。私は少々いい加減さもあり、賞には縁が無かったが昨年初めて鎌ヶ谷市から賞をもらった。（下記リスト）



日工展 2年度



日工展平成元年



千葉県展 平成25年

第十九回鎌ヶ谷市美術展覧会受賞者
及び会員推挙者

絵画部門

市展賞
市長賞
奨励賞

松丸 さつき
渡邊 伸
古岡 恵子
田中 良隆
金子 忠
野澤 光子
生明 登
三上 純一
細田 貞一
谷 芳美

会員推挙

渡邊 伸
古岡 恵子
田中 良隆
金子 忠
篠原 重男
佐藤 繁子
島根 文恵
百瀬 信二
山田 耕三郎
大淵 多美子
水落 悦子

工芸部門

市展賞
市議会議長賞
奨励賞

猪狩 晃一
山田 行雄
坂口 賢一
大島 悠子
広谷 弘
土方 洪子

会員推挙

松永 政子
菊地 都喜夫

写真部門

会員優秀賞

会員推挙



日工展 3年度